

年表・海外における日本研究

② [1868~1945]

《Studies of Japan by Foreigners ; a Chronological Table (1868~1945)》

藤津滋生編

《凡例》

*本年表は、「年表・海外における日本研究①：1~1867」の続編であり、明治元年（1868）から昭和20年（1945）までを扱ったものである。

1. 情報量が多くなったため見開きとした。
 - (左欄) a. 「日本研究の歩み」欄には主に海外の研究機関の日本研究学部・学科の創立を入れた。
 - b. 「文献年表」欄にはその年の代表的と思われる著書、論文を入れた。日本語に翻訳されているものは、その題名を用い、続けて原題を付けた。雑誌の創刊年も含めた。ほぼ執筆者のアルファベット順である。
 - (右欄) c. 「人事」欄には主な日本研究家の来日を入れた。海外の主な人達の来日も含めた。人名のアルファベット順である。
 - d. 「日本及び国外の日本」欄には日本の主な出来事、及び国外で日本を扱った博覧会等を入れた。月順である。
 - e. 「世界」欄には、世界の主な出来事を入れた。
2. 左欄「文献年表」の配列順序は次のとおりとした。
 - ① 執筆者：原則として外国人は姓のカタカナ読み（右欄「人事」に出ているもの以外は姓・名を入れた）
 - ② タイトル：日本語題名+原題名
 - ③ 発行地
 - ④ 簡単なコメントを加えた場合がある
3. 月の表記は、1872年（明治5年）12月3日の改暦以前は陰暦の年月によっており、その後は西暦を用いた。
4. 人名索引を付けた。但し、右欄「世界」の人名は省いた。
年代の次の小文字のアルファベットは年表の項目を表す。
(例)ベルグール 1868b →1868年の左から数えて2項目にあることを表す。
5. 本文中の図版は「一誠堂古書目録」、京都外国語大学図書館“NIPPONALIA”（1972）を使わせていただいた。

年代	日本研究の歩み	文献年表
1868 慶応4 明治元	*パリの東洋語学校に日本語講座開設	<p>*ベルクール(Bellecourt, P. du Chesne de) 『中国・日本の政治商業情勢 L'état politique et commercial de la Chine et du Japon』刊</p> <p>*デュノパン(Du Pin)『日本における外国人 Le Japon』パリ刊</p> <p>*パージェス『日仏辞書 Dictionnaire japonais-français』刊。1603年『日葡辞書』の仏訳</p> <p>*ロニー、邦字新聞『世のうわさ Yo-no Ouvasa』発刊。一号で終わる</p>
1869 明治2		<p>*アルミニオン『日本および1866年の軍艦マジェンタ号の航海 Il Giappone e il viaggio della corvetta Magenta nell 1866』ジュネヴァ刊</p> <p>*エルムハースト(Elmhirst, Edward Pennell)、Jephson, Richard Mounteney『我等が日本生活 Our life in Japan』ロンドン刊。横浜駐留の英国陸軍の青年兵士2人による退屈吐。多数の図版挿入</p> <p>*フェティス(Fétis, F. J.)『起源より現代に及ぶ日本音楽史 Histoire général de la musique de puis les temps les plus anciens jusqu'à nos jours』(全8巻)パリ刊</p> <p>*ニコライ(Nikolai 1836~1912)『ニコライの見た幕末日本』刊。ロシア正教大主教の見た幕末日本</p> <p>*パージェス『日本切支丹宗門史 Histoire de la religion chrétienne au Japon depuis 1598 jusqu'a 1651』(全2巻)パリ刊</p> <p>*スエンソン『日本素描 Skitser fra Japan』(雑誌“Fra Alle Lande”に発表)(~1870)</p>

人 事	日本及び国外の日本	世 界	年代
<p>* ブラントン(Brunton, Richard Henry 1841～1901)イギリス人來日(御雇外国人)灯台建築に従事</p> <p>* サトウ、ウィリスと共に西洋人として初めて京都に入る</p> <p>* ヴィリオン(Villion, Aimé<Amatius>1843～1932)フランスのパリ外国宣教会宣教師來日。キリシタン史研究</p> <p>* ワグネル(Wagener, Gottfried 1831～1892)ドイツ人來日(御雇外国人, 教育, 窯業)。わが国の珪酸工業の基礎を作った</p> <p>* ウィリス、鳥羽、伏見の戦いの負傷者の治療を行う</p>	<p>* 戊辰戦争(1月)(～69,5)</p> <p>* 堺で土佐藩兵がフランス兵を殺傷(2月)(堺事件)</p> <p>* 柳河春三「中外新聞」創刊(2月)</p> <p>* 五箇条の誓文(3月)</p> <p>* 神仏分離令。廃仏毀釈運動起こる(3月)</p> <p>* 砂糖栽培の労働者として153人がハワイに渡航(日本人移民の始まり)(4月)</p> <p>* 新貨幣(太政官札)を発行(5月)</p> <p>* 江戸を東京と改める(7月)</p> <p>* 明治と改元、一世一元制を定める(9月)</p> <p>* 日本・スウェーデン=ノルウェー修好通商航海条約調印(9月)。明治新政府が初めて外国と締結した条約</p> <p>* 日本・スペイン修好通商航海条約調印(9月)</p> <p>* 東京開市(11月)</p> <p>* 新潟開港(11月)</p> <p>* 英・米・普3公使、天皇に謁見(11月)</p> <p>(この年)</p> <p>* ホーム・リンガー商会創設</p> <p>* 高島炭坑、佐賀藩とグラバー商会の共同経営となる</p>	<p>* アメリカ大陸横断鉄道完成</p> <p>* トルストイ「戦争と平和」刊</p>	<p>1868 慶応4 明治元年</p>
<p>* ハウス(House, Edward Howard 1836～1901)アメリカのジャーナリスト初來日。英語、英文学も教授</p> <p>* レーマン(Lehmann, Rudolph 1842～1914)ドイツ人來日(製紙, 教育, 日本文化)</p> <p>* ロングフォード(Longford, Joseph Henry 1849～1925)イギリス人來日(外交, 日本文化)</p>	<p>* 初の洋式灯台「観音崎灯台」点灯(1月)</p> <p>* 日本・北ドイツ連邦修好通商航海条約調印(1月)</p> <p>* 版籍奉還。華族、士族制度(6月)</p> <p>* 本木昌造、活版伝習所を設立(6月)</p> <p>* 日本・オーストリア=ハンガリー修好通商条約調印(9月)</p> <p>* 蝦夷地を北海道と改称し、開拓使を置く(8月)</p> <p>* イギリス人フェントン、鹿児島藩の委嘱により「君が代」作曲(10月)</p> <p>* 東京～横浜間の電信創業(12月)</p> <p>(この年)</p> <p>* 人力車開発</p> <p>* 日の丸制定</p> <p>* 丸屋商社(丸善の前身)創業</p>	<p>* ボストン美術館創立</p> <p>* アメリカ大陸横断鉄道が全通</p> <p>* 「ネイチャー」(英)創刊</p> <p>* スエズ運河竣工(1959年起工)</p>	<p>1869 明治2</p>

年代	日本研究の歩み	文献年表
1870 明治3	<p>*ペテルブルグ大学(後のレニングラード大学)東洋学部に日本語講座開設。橋耕斎、最初の日本語教授となる</p>	<p>*アンペール『幕末日本図絵 Le Japon illustré』(全2巻)パリ刊。挿絵付き。スイス遣日使節団長アンペールが幕末日本の風俗、習慣、歴史、地理、宗教、諸制度を興味深く描いている。英訳：1874年</p> <p>*ベアト(Beato, Felix 1825~?)『幕末日本の風景と人々：フェリックス・ベアト写真集』刊</p> <p>*ブラック“The Far East”(写真入英字新聞)横浜にて創刊(~1875, 8)</p> <p>*ヘールツ(Geerts, Antonius Johannes C. 1843~1883)『ヘールツ日本年報 Japan in 1869』他刊</p> <p>*“The Japan Mail”(英字新聞)横浜で創刊</p> <p>*“The Phoenix”創刊(~1873)</p> <p>*サマーズ“The Phoenix”ロンドンにて創刊</p>
1871 明治4	<p>*イタリア、ナポリ東洋研究所に日本語講座開設</p>	<p>*ミットフォード『むかしの日本の物語 Tales of old Japan』(全2巻)ロンドン刊。赤穂47士の話や白井権八と小紫の話、舌切り雀や花咲爺などのお伽噺など、日本の古い話を翻訳したもので、よく読まれた</p> <p>*ポロンスキー(Polonskii, Aleksandr S.)『ロシア人日本遠征記』刊。ロシア人の日本北方探検記</p> <p>*ユール(Yule, Henry 1820~1889)“The book of Sir Marco Polo”刊</p>
1872 明治5	<p>*横浜在留の英米人らを中心に「日本アジア協会 The Asiatic Society of Japan」を設立。「日本とアジア諸国に関する知識の導入と調査」を目的とした。「日本アジア協会紀要」を発行。アストン、サトウ、チェンバレン(英国における三大ジャパノロジストといわれる)ら日本研究の論文を発表</p> <p>*カリフォルニア大学バークレー校に東洋言語及び文学のポスト設立</p> <p>*サマーズ、“Descriptive catalogue of the Chinese, Japanese, and Manchu books in</p>	<p>* Antelmo, Severini(1827~1909)柳亭種彦の『浮世形六枚屏風』をイタリア語に訳す(日本文学のイタリア語訳の最初)</p> <p>*アストン『日本文語文典 Grammar of the Japanese written language』刊</p> <p>*ボーヴォワール(Beauvoir, Comte de Ludovic 1846~?)『世界一周旅行記 第3巻：北京、江戸、サンフランシスコ Pékin, Yeddo, San Francisco : voyage autour du monde』パリ刊。フランスの外交官による世界一周旅行の途中日本に立ち寄った時の紀行文</p> <p>*ブラック、邦字紙『日新新事誌』創刊</p>

人 事	日本及び国外の日本	世 界	年代
<p>*グリフィス(Griffis, William Elliot 1843～1928)アメリカ人、福井藩に招かれて来日(御雇外国人、教育、日本文化)</p> <p>*モレル(Morell, Edmund 1841～1871)イギリス人来日(御雇外国人、鉄道技師)わが国鉄道創業の基礎計画を立てた。特に新橋・横浜間の建設に尽力</p> <p>*鈴木大拙生まれる(～1966)</p>	<p>*樺太開拓使を設置(3月)</p> <p>*「横浜毎日新聞」発刊。(わが国初の活字による日刊新聞)(12月)初めは本活字、明治5年9月26日より鉛活字を使用</p>	<p>*普仏戦争始まる</p>	<p>1870 明治3</p>
<p>*ケプロン(Capron, Horacé 1804～1885)アメリカ人来日(御雇外国人、北海道開拓使顧問)</p> <p>*クラーク(Clark, Edward Warren 1849～1907)アメリカ人来日(科学教育)</p> <p>*ガビンズ(Gubbins, John Harrington 1852～1929)イギリス人来日(外交、日本文化)</p> <p>*クニッピング(Knippling, Erwin 1844～1922)ドイツ人来日(御雇外国人、気象技術者)暴風雨警報事業創設に当り、また全国に15か所の測候所を創設</p> <p>*ミュラー(Müller, Leopold 1824～1893)ドイツ人来日(御雇外国人、医学)わが国へのドイツ医学移植の基礎をつくった</p> <p>*スコット(Scott, Marion McCarrell 1843～1922)アメリカ人来日(御雇外国人、教育)師範教育制度の制定につくした</p> <p>*スミス(Smith, Erasmus Peshine 1814～1882)アメリカ人来日(御雇外国人、法律、経済)ペルー苦力船マリア=ルース号事件に当り、わが国政府に適切な勧告を行った</p> <p>*津田梅子(7歳)ら5人、岩倉使節団とともにアメリカへ向かう(最初の女子留学生)</p>	<p>*東京・京都・大阪間に郵便開始(1月)</p> <p>*大阪造幣寮開業(2月)</p> <p>*新貨条例の制定(5月)</p> <p>*廃藩置県(7月)</p> <p>*文部省設置(7月)</p> <p>*日布(ハワイ)修好通商条約調印(7月)</p> <p>*日清修好通商条約調印(9月)</p> <p>*岩倉使視ら米政回覧使節団、横浜を出発。米、英、仏、ベルギー、オランダ、独、露、デンマーク、スウェーデン、伊、オーストリア、スイスの12か国訪問。各国政府との親善に努め、条約改正の予備交渉、欧米先進諸国の制度、文物の調査、研究を目的(11月)</p> <p>(この年)</p> <p>*南校(後の東京大学)米教師、初めて野球を教えるといわれる</p> <p>*スマイルズ著、中村正直訳「西国立志編」刊</p> <p>*グラバー=商会倒産</p>	<p>*ドイツ帝国成立</p> <p>*パリ=コミュニケーションの宣言</p> <p>*シュリーマン、トロヤ遺跡発掘</p>	<p>1871 明治4</p>
<p>*ブスケ(Bousquet, Georges Hilaire 1846～1937)フランス人来日(御雇外国人、法律、日本文化)</p> <p>*ボイル(Boyle, Richard Vicars 1822～1908)イギリス人来日(御雇外国人、鉄道技師)モレルの後任。大阪・京都間の鉄道敷設工事を完成</p> <p>*ガウランド(Gowland, William 1842～1922)イギリス人来日(御雇外国人、大阪造幣寮技師、考古学研究)</p> <p>*ル・ジャンドル(Le Gendre, Charles William 1830～1899)アメリカ人来日(御雇外国人、外交顧問)</p>	<p>*特命全権大使岩倉使視、アメリカ大統領グラントに謁見(1月)</p> <p>*福沢諭吉「学問のすすめ」刊(2月)</p> <p>*マリア=ルース号事件(7月)</p> <p>*東京に書籍館開館(8月)</p> <p>*学制制定(9月)</p> <p>*新橋-横浜間鉄道開通式(10月)</p> <p>*神武天皇即位日を紀元とする(12月)</p> <p>*太陽暦採用(12月)</p>	<p>*イエローストーン国立公園設立。アメリカ最初の国立公園であり、世界最初の国立公園</p>	<p>1872 明治5</p>

年代	日本研究の歩み	文献年表
	the Library of the India Office”ロンドン刊	<p>*ランマン(Lanman, Charles 1819~1895)“The Japanese in American”ニューヨーク、ロンドン刊。1.日本の使節団(岩倉使節団のこと)2.日本人学生たち3.アメリカにおける生活と富源よりなる</p> <p>*レーマン編[和訳独乙辞書]刊</p> <p>*オリファント“Episodes in a life of adventurer”ロンドン刊</p> <p>*フィッツマイアー“Beiträge zur Kenntnis der ältesten japanischen Poesie”(『オーストリア学士院論叢』)西洋における万葉研究の初期のもの</p>
1873 明治6	<p>*[日本アジア協会]に範を求め、横浜で『ドイツ・アジア協会 Deutsche Gesellschaft für Natur und Völkerkunde Ostasiens』(略称“OAG”)設立。機関誌“Mitteilungen”を発行。日本の言語、文学に関する論文が寄せられる</p> <p>*横浜の「グランド・ホテル」にて第一回「日本アジア協会」の年次総会が開催される</p> <p>*ドイツ、ベルリン大学に日本語講座開設</p> <p>*ロニーが議長をつとめる第一回「国際東洋学者会議」(Congrès International des Orientalistes)がパリで開催される</p> <p>*ヴェネツィアの王立商業高等学校に日本語講座設置</p>	<p>*[ドイツ・アジア協会紀要 Mitteilungen der Deutschen Gesellschaft für Natur-und Völkerkunde Ostasiens]創刊</p> <p>*グリフィス“The new Japan first reader”サンフランシスコ、横浜刊。日本人学生用に執筆した英語初歩読本</p> <p>*ヒュプナー(Hübner, Le Baron de 1811~1892)『世界散策 Promenade autour du monde-1871』(全2巻)パリ刊。オーストリア・ハンガリー帝国外交官による8か月におよぶ世界周遊記。第2部が日本篇。版を重ね、また翌年英訳、独訳が出てよく読まれた</p> <p>*森有礼『日本の教育 Education in Japan』ニューヨーク刊</p> <p>*サトウ『会話篇 Kuaiwa Hen』横浜刊</p> <p>*テュレットティーニ(Turretini, F.)雑誌『あつめ艸 Atsume Gusa』ジュネーブで創刊(~1881)。日本文学翻訳中心。</p> <p>*テュレットティーニ、雑誌『晩採草 Ban Zai Sau』ジュネーブで創刊(1880)。日本文学翻訳中心</p>
1874 明治7		<p>*アダムズ(Adams, Francis Ottowell)『日本史 The history of Japan』(2vols)刊(~75)</p>

人 事	日本及び国外の日本	世 界	年代
<p>問)</p> <p>*サトウ、第1回「日本アジア協会」総会で“Notes on Loochoo”を口頭発表。以後、次々と日本研究のすぐれた論文を発表する</p> <p>*ファン・ドールン(Van Doorn, Cornelis Johannes 1837~1906)オランダ人来日(御雇外国人、土木技師)利根川、淀川等の改修、その他築港、橋梁、運河等の工事計画・指導に当たった</p>	<p>(この年)</p> <p>*渡辺温訳「通俗伊蘇物語」(~73)</p> <p>*英国探検船チャレンジャー、日本沿海の海洋調査を行う</p>		
<p>*アンダーソン(Anderson, William Edwin 1842~1900)イギリス人、海軍省の招聘で来日(御雇外国人、医学、特に脚気の研究、日本美術)</p> <p>*朝河貫一生まれる(~1948)</p> <p>*エアトン(Ayrton, William Edward 1847~1908)イギリス人来日(御雇外国人、物理学、電気技師)わが国最初のアーク灯を点じる</p> <p>*ボアソナード(Boissonade, Gustave Emil 1825~1910)フランス人来日(御雇外国人、法律、教育)日本近代法の父といわれる。旧刑法、治罪法を起草</p> <p>*チェンバレン(Chamberlain, Basil Hall 1850~1935)イギリス人来日(教育、日本文化)</p> <p>*デ・レーケ(De Rijke, Johannes 1842~?)オランダ人来日(御雇外国人、土木技師)大阪築港、淀川改修等の工事、また東京にわが国初の洋式下水道を設けた</p> <p>*ダイヴァーズ(Divers, Edward 1837~1912)イギリス人来日(御雇外国人、化学教育)わが国の無機化学研究の基礎を作った</p> <p>*ダグラス(Douglas, Archibald Lucius 1842~1913)イギリス人来日(御雇外国人、軍事)わが国近代海軍の基礎づくりを行った</p> <p>*ダイアー(Dyer, Henry 1848~1918)イギリスの工学者来日(御雇外国人)工部大学校(東京大学の前身)初代都検(教頭)。わが国の工業技術教育の基礎を作った</p> <p>*モルレー(Murray, David 1830~1905)アメリカ人来日(教育、文部省学監)</p> <p>*ネッター(Netto, Curt Adolph 1847~1909)ドイツ人来日(御雇外国人、鉱山、冶金、教育)</p> <p>*ライン(Rein, Johannes Justus 1843~1918)ドイツ人来日(地理学、日本文化)</p> <p>*サマーズ(Summers, James 1828~1891)イギリス人来日(教育)</p>	<p>*徴兵令を定める(1月)</p> <p>*キリシタン禁令の高札を除去(2月)</p> <p>*外国人との婚姻を許可(3月)</p> <p>*東京上野公園設置を決定(4月)</p> <p>*オーストリアのウィーンで万国博覧会が開かれ、明治政府が初参加。美術工芸品を出品し好評を得る(5月)</p> <p>*カナダ・メソジスト監督教会、日本伝道を開始(6月)</p> <p>*文部省、チェンバーズの「百科全書」の翻訳版刊行開始(~1883)(7月)</p> <p>*地租改正(7月)</p> <p>*工部省工学寮創立。(1877年に工部大学校に改称)(7月)</p> <p>*森有礼ら「明六社」を設立(8月)。翌年「明六雑誌」創刊</p> <p>*日本・ペルー通商仮条約調印(8月)</p>	<p>*ヴェルス「八十日間世界一周」刊</p>	<p>1873 明治6</p>
<p>*チェンバレン、「日本アジア協会」に入会</p> <p>*ディーアス・コバルビアス(Díaz Covarrubias,</p>	<p>*民選議員設立の建白書提出(1月)</p>		<p>1874 明治7</p>

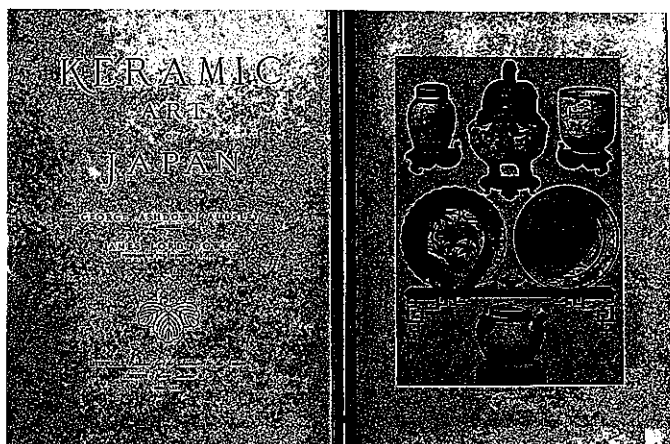
年代	日本研究の歩み	文献年表
	 <p data-bbox="253 608 510 633">パーセル『江戸郊外散策記』</p>	<ul style="list-style-type: none"> *アンペール"Japan and the Japanese illustrated"刊 *『国際東洋学会議第1回報告書 Congrès International des Orientalistes』(全3巻)パリ刊(~1878)。日本関係の論文多数あり *『日本アジア協会紀要 Transactions of the Asiatic Society of Japan』創刊。第1巻と第2巻合併号(印刷所の火事で第1巻の発行が遅れた) *パーセル(Purcell, T. A.)『江戸郊外散策記 Our neighbourhood, or, Sketches in the suburbs of Yedo』横浜刊。23図版挿入 *サトウ"American cyclopedia"vol.9に"Japanese literature"を発表
1875 明治8		<ul style="list-style-type: none"> *オーズリー (Audsley, George Ashdown)、ボウズ (Bowes, James Lord)『日本陶磁大成 Ceramic art of Japan』(2vols)ロンドン刊(~1877)彩色石版画多数挿入 *プリンクリー『語学独案内 Guide to English self-taught』刊 *ケプロン編"Kaitakushi: reports and official letters to the Kaitakushi"東京刊 *ディキンズ(Dickins, Frederick Victor)訳『仮名手本忠臣蔵 Chiushingura, or The loyal league』横浜刊。多数の図版挿入 *フランシエ(Franchet, A.)、サヴァティエ『日本植物図録 Enumeratio plantarum in Japonica spoute crescentivm』刊 *ヌーニェス・オルテガ(Núñez Ortega, Ángel)『17世紀における墨日政治通商関係の歴史的考察 Noticia histórica de las relaciones políticas y comerciales entre México y el Japón, durante el siglo xviii』刊
1876 明治9	*ローマ大学に東洋語講座新設	<ul style="list-style-type: none"> *ベルツ『日記 Das Leben eines deutschen Arztes im erwachenden Japan』シュツットガルト刊(~1905) *ディーアス・コバルピェアス『ディーアス・コバルピェアス日本旅行記 Viaje de la comisión astronómica mexicana al Japón para observar el tránsito del planeta Venus por el disco del Sol el 8 de diciembre de 1874』メキシコ刊。科学調査報告であると同時に日本の社会、経済、政治に関する考察を含む *グリフィス『皇国 The Mikado's empire』ニューヨーク、ロンドン刊。第一部：紀元前660年より1872年にいたる日本史、第二部：1870~75年の間、日本における個人的体験、観察および研究などからなる。12版を重ねた。多数の図版挿入 *Jarves, Jackson. "A glimpse at the art of Japan." ニューヨーク刊。30の図版挿入 *メチニコフ『亡命ロシア人の見た明治維新』(~1877)刊。雑誌『事業』に掲載

人 事	日本及び国外の日本	世 界	年代
<p>Francisco 1833~1889)を団長とするメキシコの天文観測隊、横浜に到着</p> <p>*フォールズ(Faulds, Henry 1843~1930)イギリスの長老派教会宣教師来日。訓盲事業に従事し、また指紋法の基礎を築いた</p> <p>*ランゲ(Lange, Rudolph 1850~1933)ドイツ人來日(御雇外国人、教育)</p> <p>*メチニコフ(Metchnikov, Lev Il'ich 1838~1888)ロシア人來日(教育、日本文化)</p> <p>*サトウ、「日本アジア協会」で“The Shintō temples of Ise”を口頭発表。神道について白熱の討論が行われた</p> <p>*橋耕齋帰国</p>	<p>*江藤新平らの佐賀の乱起こる(2月)</p> <p>*大阪-神戸間の鉄道開通(5月)</p> <p>*西郷従道ら、台湾に出兵(5月)</p> <p>*「読売新聞」創刊(11月)</p> <p>*翌年にかけて、御雇外国人がピークに達する(およそ520人)</p>		
<p>*ビング(Bing, Samuel 1838~1905)フランス人画商來日。美術品を収集</p> <p>*キヨソネ(Chiossone, Edoardo 1832~1898)イタリア人來日(印刷、日本文化)郵便切手などの印刷を改良。彼の蒐集になる日本美術品はジェノバの「キヨソネ美術館」となる。なお、来日前にシーボルトの肖像を描く</p> <p>*兵庫県令の神田孝平、「日本アジア協会」例会で“On some copper bell”について講演。“Japan weekly Mail”11月6日号に活字化される。これは同協会での日本人初のものである</p> <p>*メーソン(Mason, William Benjamin 1853~1923)イギリス人來日(電信、教育)</p> <p>*ナウマン(Naumann, Edmund 1854~1927)ドイツ人來日(御雇外国人、教育・地質学)フォッサ・マグナの発見者</p> <p>*野口米次郎、愛知県で生まれる(~1947)</p>	<p>*ロシアと樺太・千島交換条約調印(5月)</p> <p>*東京開成学校の第一回留学生、欧米へ出発(7月)</p> <p>*江津島事件(9月)</p> <p>(この年)</p> <p>*新島襄ら同志社英学校を創立</p> <p>*小笠原島、日本領となる</p> <p>*上海-横浜航路開設</p> <p>*勲章制度が設けられる</p>		1875 明治8
<p>*ベルツ(Bälz, Erwin von 1849~1913)ドイツ人医師來日(医学)。東京大学で医学の教育、研究、診療に従事</p> <p>*クラーク(Clark, William Smith 1826~1886)アメリカ人來日(御雇外国人、教育)。札幌農学校初代教頭、キリスト教主義教育をすすめる</p> <p>*フォンタネージ(Fontanesi, Antonio 1818~1882)イタリア人來日(教育)</p> <p>*ギメ(Guimet, Emile Etienne 1836~1918)フランス人來日(レガメーと共に)(日本文化)。ギメ博物館の創立者</p> <p>*ミルン(Milne, John 1850~1913)イギリス人來日(御雇外国人、地質学、鉱山学)我が国における地震学研究の先駆者</p> <p>*マンシー(Mounsey, August Henry ?~1882)イギリス人來日(外交、日本文化)</p> <p>*ラグーザ(Ragusa, Vincenzo 1841~1927)イタ</p>	<p>*日朝修好条約調印(2月)</p> <p>*官庁、日曜日、土曜半休実施(4月)</p> <p>(この年)</p> <p>*秀英舎開業(大日本印刷の前身)</p>	<p>*アメリカ建国100年を記念して、フィラデルフィア万国博覧会開催</p> <p>*ベル、電話機を発明</p> <p>*ヴィクトリア女王が英領インドの皇帝に就く</p> <p>*スペンサー「社会学原理」(全3巻)の刊行開始</p>	1876 明治9

年代	日本研究の歩み	文献年表
		<ul style="list-style-type: none"> *サトウ、石橋政方『英和口語辞典 An English-Japanese dictionary of the spoken language』ロンドン刊 *セヴェリーニ、柳亭種彦の『浮世形六枚屏風』をイタリア語に訳す(～1877)。『東洋研究学報』1巻に発表 *『東洋研究学報 Bollettino Italiano degli Studi Orientali』(伊・フィレンツェ高等研究所)創刊
1877 明治10		<ul style="list-style-type: none"> *ベルシェ(Berchet, Guglielmo)『日本使節考 Le antiche Ambasciate Giapponesi in Italia』ベネツィア刊。天正少年使節と慶長・支倉常長の事蹟 *ブスケ『日本見聞記 Le Japon de nos jours』(全2巻)パリ刊。総合的な日本文化論 *ホフマン『日本文典 Japanische Sprachlehre』(全2巻)(ライデン刊～78)。ドイツ語版 *ハウス“『The Tokyo Times』刊(～1880) *大槻修二編『洋学年表』成る
1878 明治11		<ul style="list-style-type: none"> *オールコック『日本美術の特徴 Art and art industries in Japan』ロンドン刊。106図版挿入 *エアトン(Ayrton, M. Chaplin)『日本の子供たちの生活 Child-life in Japan, and Japanese child-stories』ロンドン刊。7葉挿絵挿入 *クラーク“『Life and adventure in Japan』”ニューヨーク刊。挿絵挿入 *ギメ著、レガメー挿絵『日本散策 Promenades japonaises』(第1巻)パリ刊。多数の挿絵挿入 *キングストン(Kingston, W. H. G.)“『The three admirals』”ロンドン刊。薩英戦争に関するイギリス人作家の児童文学作品 *モース、『東京大学科学紀要』第1篇に大森貝塚の報告文“『Shell mounds of Omori』”を発表 *メチニコフ『大日本帝国 L'empire japonais』ジュネーブ刊。多数の挿絵挿入
1879 明治12		<ul style="list-style-type: none"> *アーノルド(Arnold, Sir Edwin 1832～1904)『アジアの光 The light of Asia』刊。釈迦の生涯を描く *アストン『日本語と朝鮮語の比較研究 A comparative

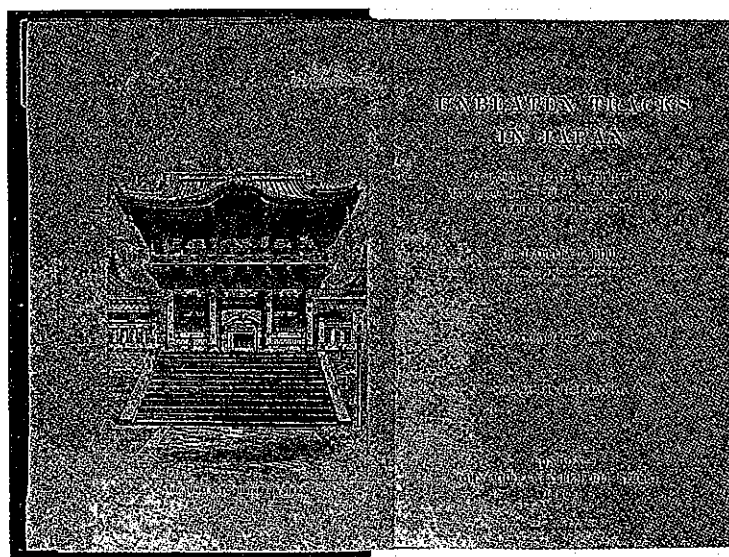
人 事	日本及び国外の日本	世 界	年 代
<p>リア人來日(美術)</p> <p>*レガメー(Régamey, Félix 1844~1907)フランス人挿絵画家來日(ギメに同行)(日本文化)。</p> <p>*Valenziani, Carlo 1831~1896)、ローマ大学で日本語教授に任命される</p>			
<p>*バッチェラー(Batchelor, John 1854~1944)イギリス人來日(宣教師, 日本文化)アイヌ伝道, アイヌ研究に生涯を捧げる</p> <p>*チェンバレン、初めて「日本アジア協会」で“On the use of “Pillow words” and play upon words in Japanese poetry”を講演</p> <p>*コンドル(Conder, Josiah 1852~1920)イギリス人建築家來日(御雇外国人, 教育, 日本文化)多くの公私の建築設計に従事</p> <p>*ノックス(Knox, George William 1853~1912)アメリカ人宣教師來日(明治学院教授, 東大講師)</p> <p>*黄遵憲(1848~1905)清末の外交家, 革新家, 詩人來日</p> <p>*モース (Morse, Edward Sylvester 1838~1925)アメリカ人來日(御雇外国人, 教育, 日本文化)大森貝塚発見者。この年10月13日、横浜の「日本アジア協会」発会式の席で「日本先住民の遺跡」を講演</p> <p>*角田柳作、群馬県で生まれる (~1964)</p>	<p>*西南戦争始まる(1月)</p> <p>*東京大学設立(4月)</p> <p>*博愛社(後の日本赤十字社)創立(5月)</p> <p>*万国郵便連合条約に加入・調印</p> <p>*第一回内国勲業博覧会開催(8月)</p> <p>*モース、大森貝塚発見(9月)</p> <p>*東京-横浜間に電話開通(11月)(この年)</p> <p>*ブリティッシュ・コロニア州(カナダ)への最初の移民</p> <p>*田口卯吉「日本開化小史」刊</p>	<p>*露・土戦争(~1878)</p> <p>*英領インド帝国成立</p> <p>*イブセン「人形の家」刊</p> <p>*モーガン「古代社会」刊</p>	1877 明治10
<p>*バード(Bird, Isabella Lucy 1831~1904)イギリスの女性旅行家來日</p> <p>*デニソン(Denison, Henry Willard 1846~1914)アメリカ人來日(御雇外国人, 外交)条約改正のために尽力し、また日清戦争, 義和団事件, 日露戦争等の国際法理に関する交渉文書を作成</p> <p>*ユーイング(Ewing, Sir James Alfred 1855~1935)イギリス人來日(御雇外国人, 機械工学)東大での講義のかたわら大学内に観測所を設け実測地震学の基礎を開いた</p> <p>*フェノロサ(Fenollosa, Ernest Francisco 1853~1908)アメリカの日本美術研究家來日(御雇外国人)岡倉天心と東京美術学校創立に参画</p> <p>*メンデンホール (Mendenhall, Thomas Corwin 1841~1924)アメリカ人來日(御雇外国人, 物理)富士山頂における重力測定や気象観測を行った</p> <p>*レーズレル (Roesler, Karl Friedrich Hermann 1834~1894)ドイツ人來日(御雇外国人, 法律)日本憲法起草に協力</p>	<p>*大久保利通, 暗殺される(5月)</p> <p>*パリ万国博覧会開催, 工芸美術品を出品(5月)</p> <p>*川島忠之助, ヴェルヌの「新説八十日間世界一周」を自費出版(仏文学の初訳)(5月)</p> <p>*外国人専用の箱根「富士屋ホテル」営業(7月)</p> <p>*久米邦武編修「特命全權大使米歐回覧実記」(全5篇)(博聞社刊)。岩倉使節団の実記で、日本の近代化の貴重な基礎資料(12月)</p>	<p>*ファーブル「昆虫記」(~1910)刊</p> <p>*ベルリッツ“Berlitz School of Languages”創設</p>	1878 明治11
<p>*アペール(Appert, Victor George 1850~1934)フランス人來日(御雇外国人, 司法省法律顧問)</p> <p>*ディクソン(Dixon, James Main 1856~1933)</p>	<p>*「大阪朝日新聞」創刊(1月)</p> <p>*長崎派訪公園内にシーボルト記念碑を建立(3月)</p>	<p>*独逸同盟成立</p> <p>*エジソン, 電球を発明</p> <p>*リヨンの「ギメ博物館」開館→</p>	1879 明治12

年代	日本研究の歩み	文献年表
	 <p data-bbox="451 645 663 672">マンシー「薩摩反乱記」</p>	<p data-bbox="681 278 1185 363">study of the Japanese and Korean languages]『The Journal of the Royal Asiatic Society of Great Britain and Ireland, New series, vol.11』に発表</p> <p data-bbox="681 369 1185 454">*デュバル(Dubard, Maurice 1945~?)『おはなさんの恋 Le Japon pittoresque』パリ刊。著者は来日経験のあるフランスの軍人</p> <p data-bbox="681 459 1185 517">*黄道憲『日本雑事詩』(全2巻)成る(1880年、香港刊)。わが国における見聞を詩に託したもの</p> <p data-bbox="681 523 1185 608">*ル・ジャンドル『日本開進論 Progressive Japan : a study of the political and social needs of the Empire』サンフランシスコ刊</p> <p data-bbox="681 614 1185 699">*ライマン (Lyman, Benjamin Smith 1835~1920) “Report of progress for 1878 and 1879, geological survey of Japan”東京刊</p> <p data-bbox="681 705 1185 821">*マンシー『薩摩反乱記 The Satsuma rebellion』ロンドン刊。反乱の記述だけでなく、反乱に至る歴史的、政治的、社会的背景を説き、幕末維新期の政治過程を要領よく織り込んでいる</p> <p data-bbox="681 826 1185 911">*ランゲ、『竹取物語』の独訳を“OAG”の紀要に発表“Das Taketori Monogatari Oder das Märchen aus dem Monde”</p>
1880 明治13		<p data-bbox="681 948 1185 1033">*バード『日本奥地紀行 Unbeaten tracks in Japan』(全2巻)ニューヨーク刊。旅行作家としての名を広めた作品。40点の挿絵、折込地図挿入</p> <p data-bbox="681 1039 1185 1124">*ブラック『ヤング・ジャポン横浜と江戸 Young Japan : Yokohama and Yedo』(全2巻)ロンドン、横浜(~1881)。1858年以降の横浜居留地と江戸市の物語</p>

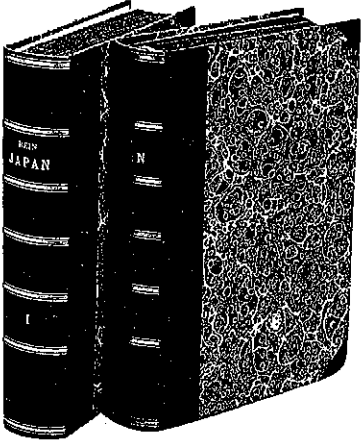


オーズリー、ボウス「日本陶磁大成」(1875)

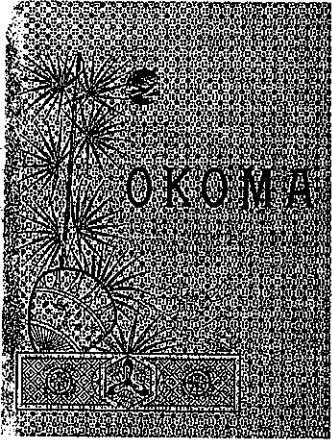
人 事	日本及び国外の日本	世 界	年代
<p>イギリス人(御雇外国人、教育)教え子に斎藤秀三郎、岡倉由三郎らがいる</p> <p>*エッケルト(Eckert, Franz 1852~1916)ドイツ人來日(御雇外国人、音楽)。1880年、国歌「君が代」の選定委員に加わる</p> <p>*メーソン(Mason, Luther Whiting 1828~1896)アメリカ人來日(御雇外国人、音楽教育)</p> <p>*ノルデンショルド(Nordenskiöld, Nils Adolf Erik 1832~1901)スウェーデンの極地探検家來日。日本語図書を収集(北橋文庫創立)</p>	<p>*松山にコレラ発生、全国に蔓延(3月)</p> <p>*琉球藩を廃し、沖縄県を置く(4月)</p> <p>*学制を廃止し、教育令制定(9月)</p>	<p>1888年、国に移譲されパリに移る →1945年、国立ギメ美術館</p>	
<p>*サトウ、チェンバレン、東京地学協会に入会</p>	<p>*集会条例を定める(4月)</p> <p>*東京 YMCA 設置(5月)</p> <p>*宮内省式部寮雅楽課、「君が代」を作曲。エッケルトが編曲(10月)</p> <p>*教育令改正(12月)</p>	<p>*ロダン「考える人」制作</p>	<p>1880 明治13</p>



バード「日本奥地紀行」(1880)

年代	日本研究の歩み	文献年表
		<ul style="list-style-type: none"> *ブラムセン (Bramsen, W.) 『和洋対暦表 Japanese chronological tables』東京刊。同年、『日本アジア協会』例会で発表された *チェンバレン『日本詞花集 The classical poetry of the Japanese』ロンドン刊。万葉集から八代集までの佳詞 *ハイネ“Japan ; Beiträge zur Kenntniss des Landes und seine Bewohner”ドレスデン刊。日本史概説書 *クラセ『日本西教史』(上下巻)の翻訳刊 *ギメ著、レガメー挿絵『日本散策 東京一日光 Promenades japonaises, Tokio—Nikko』(第2巻)パリ刊。多数のデッサン挿入 *リード (Reed, E. J.) “Japan”ロンドン刊 *李筱圃『日本紀遊』刊。中国人の来日がまだまれな時代の旅行記 *為永春水、グリーン・斎藤修一郎訳『忠義浪人 The Loyal Ronins』ニューヨーク刊。38挿絵挿入
1881 明治14	 <p data-bbox="256 1238 510 1263">ライン「日本への研究旅行」</p>	<ul style="list-style-type: none"> *ベルツ、『マイヤー百科全書』(1881年版)に「日本の将来 Die Zukunft Japans」を執筆 *“Chrysanthemum”横浜にて創刊 *プリンクリー、横浜にて『ジャパン・メール』発行 *メーソンの指導により『小学唱歌(初篇)』編集 *ライン『日本への研究旅行 Japan nach eisen und Studien』ライプチヒ刊(全2巻~1886)。自然地理、民俗、農工業、商業等を包括的に扱った学術書。44挿絵、5葉地図挿入 *サトウ、ホウズ(Hawes, A. G.)『中部および北部日本旅行案内 A handbook for travellers in central and northern Japan』横浜刊。扱う範囲が限定されているとはいえ、外国人の手になる最初の本格的な英文の日本旅行案内書。以後、編者を変えて9版(1913年)まで出る *ウーリー (Woolley, W. A.) “Historical notes on Nagasaki”を『日本アジア協会紀要』に発表
1882 明治15		<ul style="list-style-type: none"> *ボアソナード“Projet de code civil pour l'empire du Japan, 5tomes”(~1889)刊 *[Carruthers, Annie]“The pet of the consulate”ロンドン刊。イギリス女性による恋愛小説。箱館が主な舞台 *チェンバレン、『古事記』英訳“Ko-ji-ki, or Records of ancient matters”日本アジア協会刊 *ディクソン(Dixon, William Gray 1854~1928)“The land of the morning”エディンバラ刊。著者はイギリスの御雇外国人。内容は日本人論 *フェノロサ『美術真説』を講演(10月刊) *末松謙澄(1855~1920)ロンドンにて『源氏物語』を英訳刊行

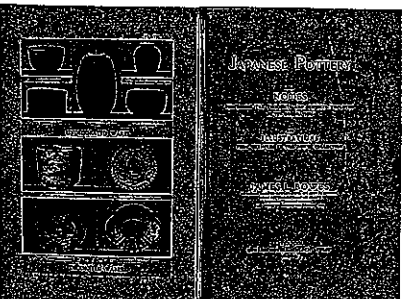
人 事	日本及び国外の日本	世 界	年代
<p>* ビゲロー (Bigelow, William Sturgis 1850～1926) アメリカ人來日。日本の美術品 2 万 6 千点を買い求め、ボストン美術館の日本美術部の基礎を作った</p> <p>* コルディエ (Cordier, Henri 1849～1925) パリ東洋語学校に出講。極東の歴史、地理及び法制についての講義を担当。1888年に教授</p> <p>* 日本政府、ブチャーチンに勲一等旭日章を贈る</p> <p>* 朴定陽ら 62 名の紳士遊覧團來日。日本の開化政策の実情調査が目的</p> <p>* スクリバ (Scriba, Julius Karl 1848～1905) ドイツ人來日 (御雇外国人、外科) わが国の外科学の育成に尽くした。内科のベルツと並んで帝国大学の双壁とされた</p>	<p>* 自由党結成 (10月)</p> <p>* 国会開設の勅諭出 (10月)</p> <p>* 日本鉄道会社創立 (11月)</p> <p>(この年)</p> <p>* ガウランド、現在の南・北アルプスを「日本アルプス」と名付ける</p>	<p>* ルーマニア王国成立</p> <p>* アレクサンドル 3 世即位 (~1894)</p> <p>* パナマ運河起工</p>	<p>1881 明治14</p>
<p>* ビゴ (Bigot, Ferdinand George 1860～1927) フランスの挿絵画家來日。18年に及び日本滞在。風刺漫画を得意とする。「ザ・グラフィック」、「ル・モンド・イリュストレ」などに日本に関する報道画を載せる</p> <p>* パーマー (Palmer, Henry Spencer 1838～1893) イギリス人來日 (御雇外国人、横浜水道設計に従事)</p> <p>* ラートゲン (Rathgen, Karl 1856～1921) ドイツの法学者來日。東京大学で行政法・政治学を教える</p>	<p>* 上野博物館 (コンドル設計) 開館 (3月)</p> <p>* 伊藤博文、憲法調査のためヨーロッパへ (3月)</p> <p>* 新橋-日本橋間に馬車鉄道開通 (6月)</p> <p>* 朝鮮で反日暴動起こる (壬午の變) (7月)</p> <p>* 大隈重信、早稲田大学の前身「東京専門学校」を開校 (10月)</p> <p>* 有栖川熾仁親王、ベテルブルグ大学に 3500 冊の日本語図書寄贈 (この年)</p> <p>* ルソー著・中江兆民訳「民約訳解」刊</p>	<p>* イギリスがエジプトを占領</p> <p>* 独逸伊三同盟成立</p> <p>* コッホ、結核菌を発見</p>	<p>1882 明治15</p>

年代	日本研究の歩み	文献年表
1883 明治16	<p>*ロニー編『ノルデンシヨルド・コレクション目録 Catalogue de la Bibliothèque Japonaise de Nordenskiöld』パリ刊。スウェーデンの極地探検家ノルデンシヨルドは1879年9月、ヴェガ号で来日。約2か月滞在し、その間日本語資料を収集。その数約1000点6000冊に及んだ。その後、ストックホルム王立図書館に収められた。この目録をロニーが編集した。この日本語コレクションは北欧では群を抜いている</p>  <p>滝沢馬琴、レガメー「お駒」</p>	<p>*ブレーキストン (Blakiston, Thomas Wright 1832~1891)『蝦夷地の中の日本 Japan in Yezo』横浜刊。1862~82に行われた北海道旅行の記録。“Japan Gazette”紙に連載されたのち単行本化</p> <p>*クロウ (Crow, Arthur H.)『日本内陸旅行 Highways and byways in Japan』刊。イギリス人による旅行記</p> <p>*ゴンス (Gonse, Louis)『日本の美術 L'art japonais』(2巻)パリ刊。64図版、多数の挿絵挿入</p> <p>*グリー (Greay, Edward 1835~1888)“The wonderful city of Tokio”ボストン刊。英国公使館で働いていたイギリス人による主に東京の案内記。169の挿絵挿入</p> <p>*グリー“The golden lotus and other legends of Japan”ボストン刊</p> <p>*Holtham, Edmund G. “Eight years in Japan, 1873~1881”ロンドン刊</p> <p>*メチニコフ『回想の明治維新』(~1884)。日刊紙『ロシア報知』に連載</p> <p>*ライン“Japan; travels and researches”ロンドン刊。1881年発行第1巻の英訳</p> <p>*滝沢馬琴『お駒 Okoma』レガメー挿絵。パリ刊</p> <p>*ヴァーベック『日本におけるプロテスタント伝道の歴史 History of Protestant missions in Japan』刊</p>
1884 明治17		<p>*フォールズ“Nine years in Nippon”ロンドン刊</p> <p>*グリー“‘The bear-worshippers of Yezo and the island of Karafuto (Saghalin)’”ボストン刊。180挿絵挿入</p> <p>*ラゴッチ (Lagotti, Paride) “L'Ambasciate Giapponese del MDLXXXV”ベネチア刊。1585年の天正遣欧使節のこと</p>
1885 明治18	*ロンドンに日本ブーム起こる	<p>*ナウマン『日本列島生成論』刊</p> <p>*西園寺公望・ゴーチエ嬢『蜻蛉集 Poèmes de la libellule』パリ刊。挿絵：山本芳翠</p>

人 事	日本及び国外の日本	世 界	年代
<p>*ローエル(Rowell, Percival 1855~1916)アメリカ人天文学者来日</p>	<p>*文明開化の象徴「鹿鳴館」開館(コンドル設計)舞踏会盛んに行われる(11月) *朝鮮人留学生60名来日</p>	<p>*ベトナム、仏の保護国となる *モーパッサン「女の一生」刊</p>	<p>1883 明治16</p>
	<p>*秩父事件(10月)</p>	<p>*朝鮮、甲申の変 *清仏戦争(~85) *『オックスフォード大辞典』刊行開始</p>	<p>1884 明治17</p>
<p>*ベルタン(Bertin, Louis Emile 1840~1924)フランス人来日(御雇外国人、造船技術)軍艦、船渠の建造指導を行った *ロイド(Lloyd, Arthur 1852~1911)イギリスの宣教師来日(英語、英文学教師)日本語に堪能で尾崎紅葉、徳富蘆花の作品を英訳した *ロチ(Loti, Pierre 1850~1923)フランスの作家、海軍士官として、この年と1900年の2回来日 *メッケル(Meckel, Klemens Wilhelm Jacob 1842~1906)ドイツ人来日(御雇外国人、軍事)陸軍の近代編成、特にドイツ式軍制の移植に功あり *アメリカのイマジズム詩人パウンド(Pound, Ezra~1972)生まれる。日本の俳句の影響を受ける *ローエル、日本アジア協会へ入会。2回研究発表</p>	<p>*羅馬字会創立(ヘボン式を採用)(1月) *天津条約調印(4月) *内閣制度確立。伊藤博文が初代首相に就任(12月)(この年) *イギリスでギルバートとサリバン作の喜劇オペレッタ「ミカド」初演 *第一回ハワイへの官約移民の渡航(~1894年まで26回、927人)</p>	<p>*バートン英訳「千夜一夜物語」(16巻~1888)刊 *ベンツ、ガソリン自動車を発明</p>	<p>1885 明治18</p>

年代	日本研究の歩み	文献年表
1886 明治19	 <p data-bbox="313 788 501 813">ビゴ―「日本素描集」</p>	<ul style="list-style-type: none"> * アンダーソン『大英博物館所蔵日本中国絵画目録 Descriptive and historical catalogue of a collection of Japanese and Chinese paintings in the British Museum』ロンドン刊 * アンダーソン『日本美術 The pictorial arts of Japan』ロンドン刊。230枚近い図版挿入 * ビゴ―『日本素描集 Croquis japonais』東京刊。銅版画31葉挿入 * ギメ、レガメー“Le théâtre au Japon”パリ刊 * モース『日本人の住まいと環境 Japanese homes and their surroundings』ボストン刊。多数の挿絵挿入 * プライヤー (Pryer, Henry James Stovin 1850～1888)『日本蝶類図譜 Phopalocera Nihonica ; a discription of the butterflies of Japan』(～89)刊 * ルサン『日本沿岸の戦闘 Une campagne surles côtes du Japon』刊
1887 明治20	 <p data-bbox="234 1323 488 1348">グリフィス「ペリー提督伝」</p>	<ul style="list-style-type: none"> * ビゴ―“Tôbaé”(時局風刺漫画雑誌 月2回刊)横浜にて創刊(1887, 2～1889, 12) * ボスタン (Bonnetain, Paul 1858～1899)『極東』刊。日本事情紹介あり * グリフィス『ペリー提督伝 Mathew Calbraith Perry』ボストン刊 * ノリス (Knollys, Henry)“Sketches of life in Japan”ロンドン刊。明治10年代末に来日したイギリス人砲兵将校による日本旅行記。7枚の写真挿入 * オランダ東インド会社バタヴィア総督府『バタヴィア城日誌 Dagh-Register gehouden int Casteel Batavia』刊。日本関係あり * 黄遊窓『日本国志』成る(全40巻)。明治10年代の日本の現勢を、総合的、具体的に記述(1890年刊) * ロチ『お菊さん Madame Chrysanthème』パリ刊。日本娘お菊さんと過ごしたひと夏の印象を半自叙伝風に日記体で記した小説。ハーンの作品とともによく読まれた。日本人の生活、日本の風景を描いたデッサンと水彩画挿入 * レースレル『原規 Entwurf einer Verfassung für das Kaiserlichen Japan』執筆
1888 明治21		<ul style="list-style-type: none"> * アペール“Ancien Japon, avec la collaboration de H. Kinoshita”(全3巻)東京刊。図版多数挿入 * ビング『芸術の日本 Artistic Japan』(雑誌) (～1891)。ロンドン刊。仏、独訳版あり * ケイン (Caine, William Sproston 1842～1903)“A trip round the world in1887-8”英国下院議員による長女を伴った世界周遊記。11～14章が日本の部。111枚のイラスト挿入 * チェンバレン『日本口語便覧 A handbook of collo-

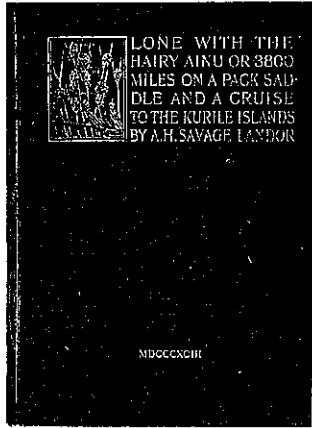
人 事	日本及び国外の日本	世 界	年代
<p>*アダムズ(Adams, Henry 1838~1918)アメリカの歴史家、思想家、作家来日</p> <p>*チェンバレン、帝国大学文科大学(東京大学文学部)の博言学(言語学)の教授となる</p> <p>*フェノロサ、岡倉天心波欧</p> <p>*ラ・ファージ(La Farge, John 1835~1910)アメリカ人画家来日</p> <p>*モッセ(Mosse, Albert 1846~1925)ドイツ人来日(御雇外国人、法律)地方自治制度の功労者</p>	<p>*日布(ハワイ)渡航条約調印(1月)</p> <p>*北海道の三県を廃し、北海道庁を設置(1月)</p> <p>*「毎日新聞」創刊(5月)</p> <p>*第1回条約改正会議開催(5月)</p> <p>*田中館愛橋、「Romazi Sinsi」を創刊し、日本式ローマ字綴りを提唱(5月)</p> <p>*英国の宣教師、軽井沢で避暑(以後軽井沢が避暑地として知られ始める)(6月)</p>	<p>*英国、ビルマを併合</p>	<p>1886 明治19</p>
<p>*ギュリック(Gulick, Sidney Lewis 1860~1945)アメリカン・ボード宣教師来日(教育、日本国民性研究)</p> <p>*この頃パピノ(Papinot, E. 1860~1942)パリ外国宣教会宣教師来日</p> <p>*ランゲ、ベルリンの東洋語学院の日本語講師となる</p> <p>*南方熊楠渡米</p> <p>*リース(Riess, Ludwig 1861~1928)ドイツ人来日(御雇外国人、教育、歴史学、日本文化)</p> <p>*スタイヘン(Steichen, Michel 1857~1929)フランスの聖職者、日本研究家来日。日本キリスト教史を研究</p>	<p>*中江兆民「三酔人経綸問答」刊(5月)</p> <p>*保安条例公布・施行(12月)</p>	<p>*仏領インドシナ連邦成立</p>	<p>1887 明治20</p>
<p>*ベーコン(Bacon, Alice Mabel 1858~1918)アメリカ人来日(教育)</p> <p>*ピゴット(Piggott, Sir Francis Taylor 1852~1925)イギリス人来日(御雇外国人、首相法律顧問、日本文化)</p> <p>*ウェストン(Weston, Walter 1861~1940)イギリス人来日(宣教師、登山)</p>	<p>*桶村正久、米英視察に出発(3月)</p> <p>*市制・町村制を公布(4月)</p> <p>*日本・メキシコ修好通商条約調印(11月)。最初の対等条約</p>	<p>*パリにギメ美術館開設</p>	<p>1888 明治21</p>

年代	日本研究の歩み	文献年表
		<p>quial Japanese]刊 *ハウス“Yone Santo ; a child of Japan, a tale”ニュー ヨーク刊 * Johnston, James, ed. “Report of the centenary conference on the Protestant missions of the world” (2巻)ロンドン刊。1888年に開催された世界宣教会議の記 録。日本の部あり * ネットー【日本の紙の蝶々 Papier=Schmatterlinge aus Japan】ライブチ刊。挿絵挿入 * ローエル【極東の魂 The soul of the Far East】ボス トン刊。ハーンをしてこの一冊本は東洋についての最良の書 物、云々、と感嘆せしめ、彼に來日の意欲をかきたたせたと いわれる * サトウ【日本耶穌会刊行書誌 The Jesuit mission press in Japan】(ロンドン 私家版)。いわゆるキリシタン版につ いての最初の成果 * 島田三郎【開国始末】刊</p>
1889 明治22		<p>* バチェラー【アイヌ英和対訳辞書 An Ainu English Japanese dictionary】東京刊 * ベイツ(Bates, Emily Katharine)“Kaleidoscope ; shifting scenes from East to West”ロンドン刊。イギリ ス女性グループによる世界旅行記。日本の部あり * クラパレード(Claparède, Arthur de)“Au Japon ; notes et souvenirs”ジュネーブ刊。著者は來日経験のある スイス人 * グダロー(Goudareau, Gustave)【仏蘭西人の駆けある 記 Excursions au Japon】パリ刊。フランス人による上信 越への旅行記。挿絵多数挿入 * ルクー(Lequeux, A.)“Le théâtre japonais”パリ刊 * ロチ【秋の日本 Japoneries d'automne】パリ刊 * ライン“The industries of Japan”ロンドン刊。1881年 発行第2巻の英訳</p>
1890 明治23	 <p>ボウズ「日本陶器」</p>	<p>* ボウズ【日本陶器 Japanese pottery】リヴァプール刊。 多数の挿絵挿入 * チェンバレン【日本事物誌 Things Japanese】ロンドン 刊。広範かつ詳細にわたる日本研究の集大成。以後、6版 (1939)まで出る * ディクソン(Dixon, James Main 1856~1933)“Dic- tionary of idiomatic English phrases”刊。著者はイギリ スの御雇外国人で東大で英語、英文学を講じた * ガッティノーニ(Gattinoni, Giulio)【日本口語文典 Grammatica della lingua giapponese parlata】刊 * “The Japan Advertiser”(日刊英字新聞)横浜にて創刊 * ランゲ【日本語口語表現辞典 Lehrbuch der japanis- chen Umgangssprache】ベルリン刊 * リッター(Ritter, H)【日本プロテスタント布教史 Dre- issig Jahre protestantischer Mission in Japan】ベル</p>

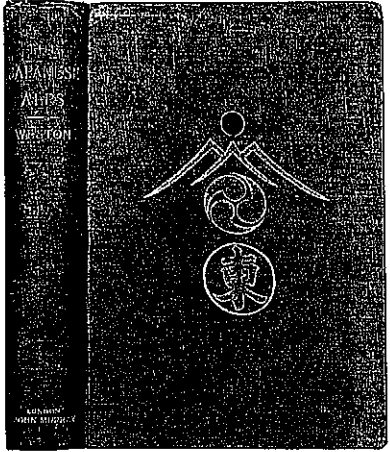
人 事	日本及び国外の日本	世 界	年代
 <p>ピング「芸術の日本」</p>			
<p>* フローレンツ(Florenz, Karl Adolf 1865～1939)ドイツ人來日(教育, 日本文化) * フレイザー(Fraser, Hugh 1837～1894)イギリス人來日(駐日イギリス公使) * モラエス(Moraes, Wenceslau de 1854～1929)ポルトガル人初來日(1898年日本に移住)(外交, 日本文化)日本婦人と結婚し、多数の著者を刊行する * マードック(Murdoch, James 1856～1921)イギリス人來日(教育, 日本史研究) * ペリ(Péri, Noël 1865～1922)フランス人來日(宣教師, 音楽, 日本文化) * 高木八束生まれる(～1984) * ウェイリー(Waley, Arthur David 1889～1966)イギリスのシナ、日本学者生まれる。來日経験はないが『源氏物語』などを英訳する</p>	<p>* 大日本帝国憲法発布(アジアで初の憲法)(2月) * 日米新通商航海条約調印(2月) * 日独新通商航海条約調印(6月) * 日露新通商航海条約調印(8月) 以上3国の条約は発効せず</p>	<p>* 第2インターナショナル * フランス革命100年を記念して、パリで万国博覧会開催 * エッフェル塔完成</p>	<p>1889 明治22</p>
<p>* ブラム(Blum, Robert Frederick 1857～1903)アメリカ人の画家來日。「花市場」、「アヤメ」が代表作 * ハーン(Hearn, Lafcadio 1850～1904)イギリス人來日(のち帰化: 小泉八雲)(教育, 日本文化, 作家)松江中・五高・東大などで教えながら、数多くの日本研究をまとめ海外で紹介した * プチャーチンの遺言により、100ルーブルが戸田村へ贈られる</p>	<p>* 『国民新聞』創刊(2月) * 府県制・郡制を公布(5月) * 第1回帝国議会開かれる(7月) * 「教育ニ関スル勸語」発布(10月) * 東京～横浜間電話交換開始(12月)</p>	<p>* ビスマルク引退 * フレイザー『金枝篇』(全12巻)刊 * コッホ、ツベルクリンを創製</p>	<p>1890 明治23</p>

年代	日本研究の歩み	文献年表
		<p>リン刊 *スミルノフ, デー・デー「日本語研究入門」刊 *極東研究誌“T'oung Pao”(通報)創刊</p>
1891 明治24	*ロンドン日本協会(Japan Society of London)設立	<p>*ベーコン「日本の女性 Japanese girls and women」ボストン、ニューヨーク刊。著者は来日経験のあるアメリカ人 *ボウズ“A vindication of the decorated pottery of Japan”(Priv. print) *チェンバレン, メーソン「日本旅行案内 A hand book for travellers in Japan」刊 *コンドル“The flowers of Japan and the art of floral arrangement”刊。西洋人による初めての生け花の本 *ゴンクール(Goncourt, Edmond de 1822~1896)「歌麿 Outamaro」パリ刊 *“The Kobe Chronicle”(日刊英字新聞)創刊(~1942) *ミルン, バートン(Burton, William K. 1856~1899) “The great earthquake in Japan-1891.”横浜刊。濃尾大地震のルポルタージュ写真集 *ローエル「能登一人に知られざる日本の辺境 Noto: an unexplored corner of Japan」ニューヨーク刊。この紀行文は最初“Atlantic Monthly, Jan. ~ Apr. 1891”に連載された *新渡戸稲造「日米交渉論 The intercourse between the United States and Japan」ボルチモア刊 *ラートゲン“Japan's Volkswirtschaft und Staatshauschalt”ライプチヒ刊 *レガメー“Le Japon pratique”パリ刊。著者による100の挿絵挿入 * Scidmore, Eliza Ruhamah. “Jinrikisha days in Japan”ニューヨーク、ロンドン刊。来日経験のあるアメリカ女性による旅行案内記。図版・写真挿入</p>
1892 明治25		<p>*パチュラー“The Ainu of Japan”ニューヨーク刊。80挿絵挿入 *浜田彦蔵「アメリカ彦蔵自伝 The narrative of a Japanese」(全2巻)日本人として最初の英文の著者 *Gramatzky, August. 「古今和歌集」を独訳する。“Alt-japanische Winterlieder aus dem Kokinwakashu”ライデン刊 *ノーマン(Norman, Henry 1858~1939) “The real Japan; studies of contemporary Japanese manners, morals, administration, and politics”ロンドン刊。著者は来日経験のあるイギリス人。主に米仏の新聞に掲載された日本見聞記をまとめた *ピゴット「日本の庭園 The garden of Japan」ロンドン刊。挿絵挿入</p>

人 事	日本及び国外の日本	世 界	年代
<p>*ロチ、アカデミーフランセーズの会員となる</p>	<p>*駿河台「ニコライ聖堂」開堂(シユチュルポフ設計、コンドル修正) *ロシア皇太子ニコライ、大津で巡査津田三蔵に斬りつけられる(5月)(大津事件) *濃尾大地震(10月)。近代日本最大規模 *田中正造、足尾鉾毒問題の質問書を議会に提出(12月) (この年) *ウェストン、初めて日本アルプスを訪れる</p>	<p>*モリス、「ケルムスコット・プレス」設立</p>	<p>1891 明治24</p>
<p>*クーデンホーフ・カレルギ(Coudenhove-Kalergi, Heinrich 1859~1906)オーストリア人來日(外交) *南方熊楠渡英</p>	<p>*第2回総選挙 *森鷗外、アンデルセンの「即興詩人」を訳し始める(11月)</p>		<p>1892 明治25</p>

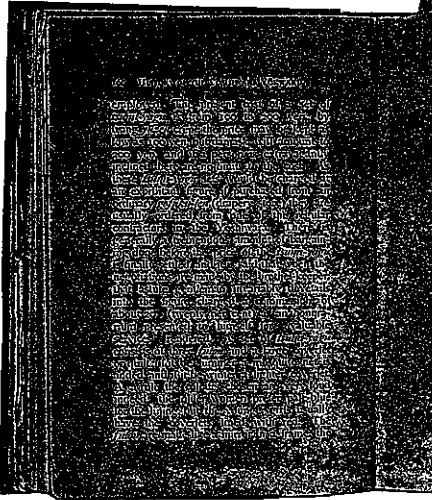

年代	日本研究の歩み	文献年表
1893 明治26	<p>*シカゴで万国宗教大会が開かれ、日本仏教が広く世界に紹介される</p>  <p>ランドー「エゾ地一周ひとり旅」</p>	<p>*ペーコン「A Japanese interior」ボストン、ニューヨーク刊。日本見聞記</p> <p>*ビッカーステス嬢 (Bickersteth, M.) 『日本見たまま Japan as we saw it』刊。イギリス女性の日本見聞記</p> <p>*チェンバレン「The record of ancient matters」刊</p> <p>*コンドル『日本の風景造園術 Landscape gardening in Japan』ロンドン刊。日本庭園の解説書としてよく読まれた</p> <p>*ランドー (Landor, A. H. S. 1865~1924) 『エゾ地一周ひとり旅 Alone with the hairy Ainu』ロンドン刊。イギリスの画家、旅行家の明治時代の北海道旅行記。多数の挿絵挿入、折込地図</p> <p>*レール (Layre, J.) 『明治維新論 La restauration Impériale au Japon』パリ刊</p> <p>*ロンドン日本協会年報 Transactions and Proceedings of the Japan Society London』創刊</p> <p>*ピゴット『日本の音楽と楽器 The music and musical instruments of Japan』刊</p> <p>*ロシェット (Rochette, Edm.) 『Lettres du Japon』ジュネーブ刊。著者はスイス副領事として横浜に滞在したことがある</p>
1894 明治27		<p>*ベルタン「Les grandes guerres civiles du Japon」パリ刊</p> <p>*カヴァリヨン (Cavaglioni, E.) 『254日世界一周』パリ刊。1891年日本に滞在</p> <p>*ディキンズ (Dickins, F. V.), Lane-Poole, S. 『パークス伝 The life of Sir Harry Parkes, same time Her Majesty's minister to Japan & China』(2vols) ロンドン刊</p> <p>*ハーン『知られぬ日本の面影 Glimpses of unfamiliar Japan』(全2巻)ボストン、ニューヨーク刊</p> <p>*パーマー『黎明期の日本からの手紙 Letters from the land of the Rising Sun』刊</p> <p>*内村鑒三「Japan and the Japanese」刊</p> <p>*ヤングハズバンド (Younghusband, George John) 『On short leave to Japan』ロンドン刊。在印の英国軍人による日本旅行手引き書。短期間の休暇旅行</p>
1895 明治28	<p>*ウェンクシュテルン『大日本書史 A bibliography of Japanese Empire』(全2巻)ライデン・東京刊(1907)。欧文による包括的な日本関係書誌でパジェスの『日本書誌』に続くもの</p>	<p>*チェンバレン『日琉語比較文典 Essay in aid of a grammar and dictionary of the Luchuan language』『日本アジア協会』例会で発表された琉球研究の金字塔</p> <p>*グリフィス「Townsend Harris」ボストン刊</p> <p>*Holland, Clive. 「My Japanese wife; a Japanese idyl」ロンドン刊。挿絵挿入</p> <p>*コジェンスキー『世界一周旅行 1893~94 Cesta Kolem Sveta』(全2巻)プラハ刊。第一巻に460頁分の日本の部あり。明治26年当時の日本人の風俗、生活の写真挿入。一か月余滞在の見聞録</p> <p>*モラエス『極東遊記 Traços de Extremo-Oriente』</p>

人 事	日本及び国外の日本	世 界	年代
<p>*ケーベル(Koeber, Raphael von 1848~1923)ロシア人來日(哲学,教育,音楽)在日30年におよび,この間一度も帰国することなく日本で死去</p> <p>*コジェンスキー(Korensky', Josef 1847~1938)チェコスロバキアの教育者,世界一周の途中心來日</p> <p>*黒田清輝,フランス留学から帰国し,外光派の画風をもたらす</p> <p>*ルヴォン(Revon, Michel 1867~1947)フランス人來日(御雇外國人,教育,日本文化)</p>	<p>*『文学界』創刊(1月)</p>	<p>*コロンブスのアメリカ大陸発見400年を記念して,シカゴで万国博覧会開催</p> <p>*ナンセン, Fram号で北極海を漂流</p> <p>*ヘディン, 第1回中央アジア探検</p>	<p>1893 明治26</p>
	<p>*日英新通商航海条約調印(治外法権の徹廃・関税率上げを実現,以降各国とも改正条約に調印)</p> <p>*日清戦争勃発(8月)</p> <p>*北里柴三郎,ペスト菌を発見</p> <p>*日米通商航海条約調印(11月)</p> <p>*日伊通商航海条約調印</p>	<p>*露仏同盟成立</p> <p>*ドレフス事件</p>	<p>1894 明治27</p>
<p>*南方熊楠,大英博物館の囑託となる</p> <p>*日本語教育の先駆者,長沼直兄生まれる(~1973)</p> <p>*孫文(1866~1925)日本に亡命</p>	<p>*日清講和条約調印(清国から台湾をえる。最初の植民地)(4月)</p> <p>*露仏独の三国干渉(4月)</p> <p>*日露通商航海条約調印(6月)</p> <p>*日伯(ブラジル)修好通商条約調印</p>	<p>*レントゲン, X線を発見</p> <p>*リュミエール兄弟,映写機を發明</p>	<p>1895 明治28</p>

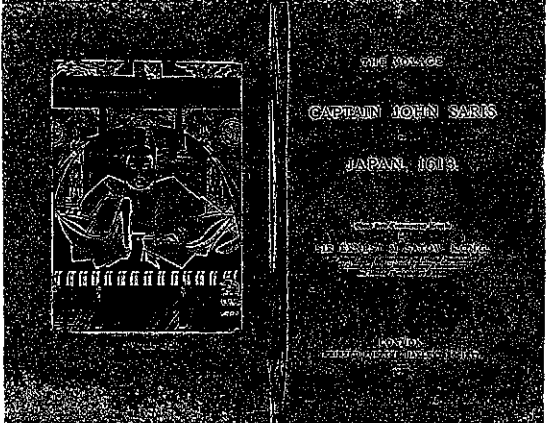
年代	日本研究の歩み	文献年表
		<p>Siam-China-Japão]リスボン刊。モラエスの最初の日本紹介書。日本の部が半分ある。リスボンの新聞に発表された</p> <p>*トリストラム(Tristram, Henry Baker 1822~1906) "Rambles in Japan; the land of the rising sun" ロンドン刊。博物学者かつ神学者のイギリス人による日本旅行記。娘キャサリンが同行。絵・スケッチ挿入</p>
<p>1896 明治29</p>	 <p>ウェストン『日本アルプス登山と探検』</p>	<p>*内村鑑三 "How I became a Christian" 刊</p> <p>*アストン『日本(書)紀』を英訳する "Nihongi: chronicles of Japan from the earliest time to A. D. 629" (全2巻) ロンドン刊</p> <p>*プリンクリー、南条文雄、岩崎行親共著『和英大辞典 An unabridged Japanese-English dictionary』東京刊</p> <p>*"The Far East" 創刊</p> <p>*ゴンクール『北斎 Hokousai』パリ刊</p> <p>*ハーン『心 Kokoro』刊</p> <p>*リンダウ(Lindau, R.)『シナと日本から Aus China und Japan』ベルリン刊</p> <p>*マルナス(Marnas, Francisque 1859~1932)『日本キリスト教復活史 La religion de Jésus (IASOJAKYO) resuscitée au Japon dans la seconde moitié du XIX siècle』パリ刊。著者はフランスの宣教師。ザビエルの来日から明治中期まで扱う</p> <p>*ルヴォン "Etude sur Hokusai" 刊</p> <p>*ウェストン『日本アルプス登山と探検 Mountaineering and exploration in the Japanese Alps』ロンドン刊</p>
<p>1897 明治30</p>		<p>*ダンバース (Danvers, Charles)、フォスター (Foster, William)『慶元イギリス書簡 Letters received by the East India Company from its servants in the East, 1602~1617』(6 vols. ~1902) 第5巻に平戸イギリス商館の書簡141通あり</p> <p>*ガウランド『日本古墳文化論 The dolmens and burial mounds in Japan』『ロンドン古物学協会』で発表</p> <p>*"The Japan Times" 東京で創刊。日本人の経営、編集になる最初の日刊英字新聞</p> <p>*ラ・ファージ "An artist's letters from Japan" 刊</p> <p>*モラエス『大日本 Dai-Nippon (O grande-Japão)』リスボン刊。主に歴史、美術工芸を述べる。初期の作品で最良のものといわれる</p> <p>*ナホッド (Nachod, Oskar 1858~1933)『17世紀日蘭交渉史 Die Beziehungen der Niederländischen Ostindischen Kompagnie zu Japan im siebzehnten Jahrhundert』ライプチヒ刊</p> <p>*Ribaud, Michel. "Japonais et Ainos dans le Yeso (Hokkaido)" 파리刊。最初 "Missions Catholiques"</p>

人 事	日本及び国外の日本	世 界	年代
<p>*朝河貫一(1873~1948)渡米。後、アメリカの指導的大学の一つであるイエール大学教授となる *清国、留学生13名来日</p>	<p>*ジョーンズ(Jones, Sidney 1861~1946)、オペレッタ[芸者 The Geisha]ロンドンにて初演 *日本人の経営、編集になる最初の日英字新聞『ジャパン・タイムズ』創刊(3月) *金本位制の成立(3月) *榎本殖民35名メキシコの土を踏む(中南米における組織的な日本人移住の第一弾)(5月) *日露協定成立(5月) *日・清通商航海条約調印(7月) *日・仏通商航海条約調印(8月) *高等商業学校付属外国語学校(東京外国語大学)に初めて西語科創設(9月) *日本・アルゼンチン修好通商航海条約調印</p>	<p>*第一回オリンピック大会がギリシャのアテネで開かれる</p>	<p>1896 明治29</p>
<p>*鈴木大拙渡米(27歳) *アーノルド(Arnold, Sir Edwin 1832~1904)イギリス人来日。『デイリー・テレグラフ』紙編集者</p>	<p>*河口慧海、チベットへ向け神戸を出発(6月) *京都帝国大学設立(6月) *志賀潔、赤痢菌を発見(12月)</p>		<p>1897 明治30</p>

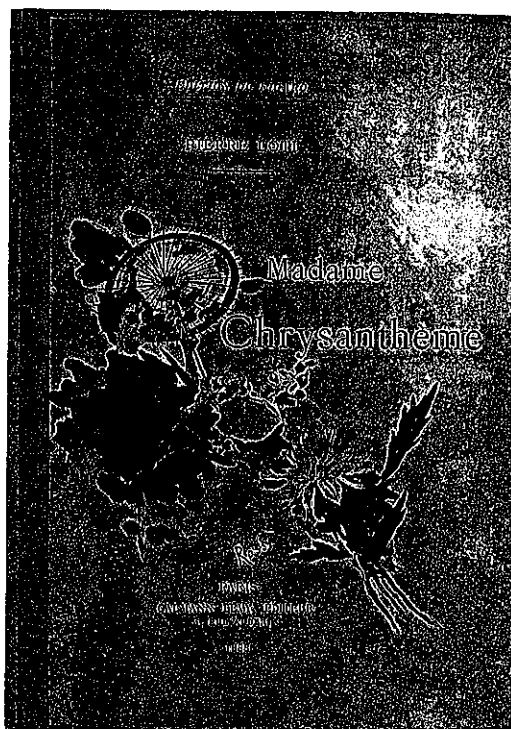
年代	日本研究の歩み	文献年表
		vol.29に発表された。多数の挿絵挿入 * シーボルト[日本 Nippon : Archiv zur Beschreibung von Japan]ヴェルツブルク刊 * Strange, Edward E. "Japanese illustration : a history of the art of wood-cutting and colour printing in Japan" ロンドン刊
1898 明治31		* Diósy, Arthur. "The new Far East"刊 * ダグラス(Douglas, R. K.) "Catalogue of Japanese printed books and manuscripts in the Library of the British Museum" (全2巻) ロンドン刊(~1904) * ムンチンガー(Munzinger, Carl 1864~1937) [ドイツ宣教師の見た明治社会 Die Japaner ; Wanderungen durch das geistige...] ベルリン刊 * ポーター(Porter, R. P.) "The commerce and industries of Japan" フィラデルフィア刊 * リース[平戸イギリス商館史 History of the English factory at Hirado, 1613~1622] (Trans. Asia. Soc. Japan, 26の付録)
1899 明治32	* ウラジオストックの東洋大学に日本語講座開設	* アダム(Adam, Jules) [日本の話芸家 Au Japon les raconteurs publics]刊 * アストン[日本文学史 A history of Japanese literature]刊 * チェンバレン[文字のしるべ A practical introduction to the study of Japanese writing]刊 * コックス, "Diary of Richard Cocks, cape-merchant in the English factory in Japan 1615~1622" 東京刊。1613年イギリスと日本は国交を開始した。イギリス船の来日事情や当時の日本側の対応などを詳説 * ド・ベッカー(De Becker, J. E.) [不夜城 The nightless city] 横浜刊。20図版。5枚着色写真挿入 * フレイザー夫人(Fraser, Mary Crawford 1851~1922) [日本における外交官の妻 A diplomatist's wife in Japan] ロンドン刊。明治20年代の日本の姿を描く * ゴシケビッチ[日本語の語源について] (息子のヨシフによって出版) * 新渡戸稲造[武士道 Bushido : the soul of Japan] フィラデルフィア刊 * パピノ師(Papinot, E. 1860~1942) [日本史・日本地理辞典 Dictionnaire japonais-français des noms principaux de l'histoire et de la géographie du Japon] 香港刊
1900 明治33	* 南京同文書院開設(翌1901年「東亜同文書院(上海)」となる)	* ベラスコ "Madame Butterfly" 脚色 * ベルソール(Bellessort, André 1866~1942) [日本滞在記 Les journées et les nuits japonaises] パリ刊。著者はフランス人で2度来日経験あり。日本見聞記 * Brunoff, Maurice de. "Histoire de l'art du Japon"

人 事	日本及び国外の日本	世 界	年代
<p>*ベイル、ガブリエル横浜に上陸し、映画『明治の日本』を撮る(リュミエール兄弟製作)</p>	<p>*岡倉天心ら、日本美術院を創立(10月) *日本・アルゼンチン修好通商航海条約調印</p>	<p>*米西戦争起こる *東亞同文会発会(1901年東亞同文書院と改称)</p>	<p>1898 明治31</p>
<p>*モラエス、初代ポルトガル領事となる *スパルビン(Spalvin, Evgenii G. 1872~1933)ロシア人來日(教育、日本語研究)</p>	<p>*治外法権の徹底(7月) *万国平和会議条約調印(7月) *日本・ギリシア修好通商航海条約調印 *河口慈海、チベットに潜入</p>	<p>*義和団事件 *ポーア戦争始まる</p>	<p>1899 明治32</p>
 <p>ド・ベッカー「不夜城」</p>			
<p>*アレン(Allen, George C. 1900~1982)イギリスの経済学者生まれる。日本経済の著書を著す *ハーツホーン(Hartshorne, Anna Cope 1860~1957)アメリカ人來日。津田塾大学などで教える。日本の女子高等教育に生涯を捧げた</p>	<p>*治安警察法公布(3月) *パリ万国博覧会開催、新・古美術品を出品(4月) *『明星』創刊(4月) *夏目漱石、文部省の第一回給費</p>	<p>*スタイン、中央アジア探検</p>	<p>1900 明治33</p>

年代	日本研究の歩み	文献年表
		<p>パリ刊。パリ万国博覧会のために刊行 *グリフィス“Verbeck of Japan, A citizen of no country, A life story of foundation work inaugurated by Guido Fridolin Verbeck”ニューヨーク刊 *ホラ (Hora, Karel Jan) “Duse Japonska”プラハ刊。新渡戸稲造『武士道』のチェコ語訳。著者は来日経験あり *ルロワ=ボーリユー (Leroy=Beaulieu, Pierre 1871~1915) “La rénovation de l’Asie. Sibérie-Chine-Japon”パリ刊。アジアの見聞記。第2部が日本 *ムア (Moore, Rev. Herbert) “Half-hours in Japan”ロンドン刊。イギリス宣教師による日本人論 *フィリップ編 (Philipp, Graf) 『第一回独逸遣日使節日本滞在記 Ostasien 1860~1862 in Briefen des Grafen Fritz zu Eulenburg, Königlich Preussischen Gesandten』ベルリン刊 *セーリス著 サトウ校訂『日本渡航記 The voyage of captain John Saris to Japan in 1613』ロンドン刊。1613年、イギリスは日本と国交を開始した。これはイギリス船の来日事情や当時の日本側の対応などを詳説 *帝国博物館編『日本美術史』(仏文)刊</p>
1901 明治34	*カリフォルニア大学バークレー校に日本語カリキュラムが加わる *フランス極東学院(ハノイ)創立 	*ベナゼー (Bénazet, Alexandre) “Le théâtre au Japon”パリ刊。図版挿入 *ブランド (Brandt, Max von 1835~1920) 『黎明日本 Dreiunddreissig Jahre in Ostasien, Erinnerungen eines deutschen Diplomaten』(全3巻~1902) ライプチヒ刊。プロイセン使節オイレンブルクの随員として来日した時の見聞記 *ブリנקリー “Japan and China” (全12巻) ロンドン刊 (~1920)。多数の彩色挿絵挿入 *フローレンツ、『日本書記 Nihon Shoki』を独訳 *メンペス嬢 (Menpes, Dorothy) “Japan” ロンドン刊。主に日本の芸術について述べる。100枚に及ぶ父親の水彩画挿入 *ネッター、ワグネル共編『日本人のユーモア - Japanese Humor』ライプチヒ刊。257枚の挿絵、5枚彩色絵。江戸から明治にかけての人々の生活の様子をコミカルな絵で紹介 *Watanna, Otono. “A Japanese nightingale” ニューヨーク、ロンドン刊。アメリカの女流作家による日本を舞台にした大衆小説。スケッチ挿入 *ファン・ベルゲン (Van Bergen, Rob.) “A boy of old Japan” ボストン刊。8彩色図版挿入
1902 明治35		*ベルソール『日本旅行・日本社会 Voyage au Japon. La société japonaise』パリ刊。日本見聞記 *ハーツホーン “Japan and her people” (全2巻) フィラデルフィア刊。50挿絵。地図挿入 *Holland, Clive. “Mousmé ; a story of the West

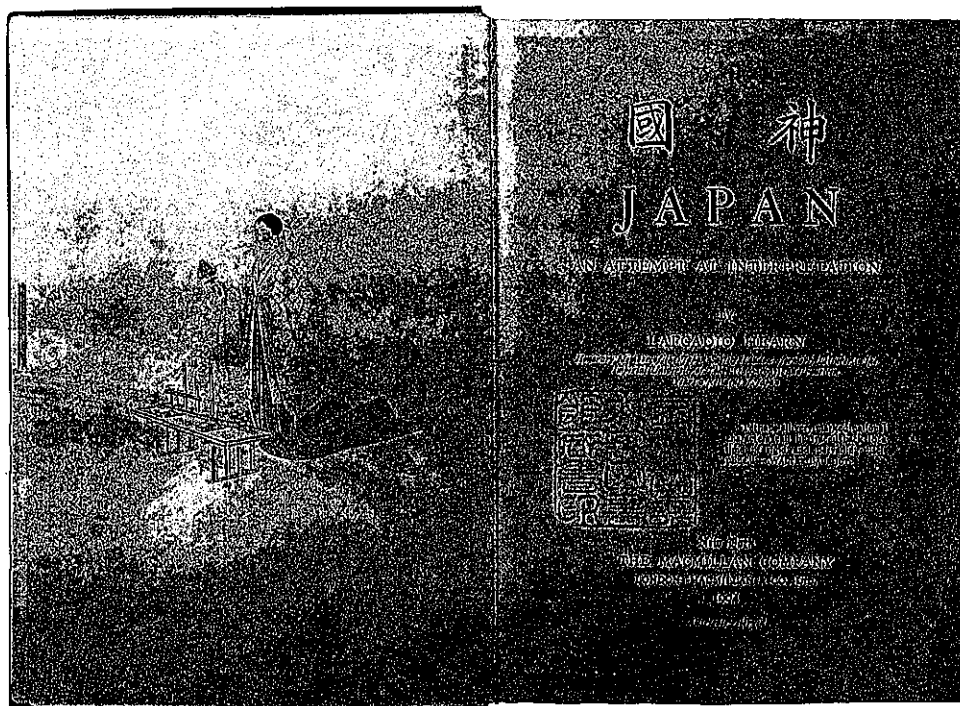
人 事	日本及び国外の日本	世 界	年代
<p>* タブラーダ (Tablada, José Juan 1871~1945) メキシコの詩人、念願の日本旅行。日本のとりこになる。後、「ホクサイの詩」、「広重」を執筆</p>  <p>セーリス、サトウ「日本渡航記」</p>	<p>留学生として渡英(9月) (この年) * 丸善、米国製英文タイプライタ ー輸入</p>		
<p>* モース、ボストン美術館日本陶器部部長となる * 八杉貞利(1876~1966)、ロシアに留学。帰国後、東京外国語学校ロシア語教授、多くの日本人ロシア語学者を育てる</p>	<p>* 八幡製鉄所操業(2月) * 高峰銀吉、アドレナリンの特許 を取得(7月)</p>	<p>* 英領オーストラリア連邦成立 * 第一回ノーベル賞、レントゲン ら授賞 * グラスゴウ産業博覧会開催。日 本から60社近くが出品 * スコット、第1回南極探検</p>	<p>1901 明治34</p>
<p>* 岡倉天心、インドへ旅行(タゴールと会う) * 魯迅(1881~1936)中国の文学者、思想家。日本に 留学</p>	<p>* 日英同盟締結(1月) * 大谷光瑞、第1回中央アジア探 検に向かう</p>		<p>1902 明治35</p>

年代	日本研究の歩み	文献年表
		and east"ニューヨーク刊 *ロニー"Feuilles de momidzi"パリ刊。多数の挿絵挿入 * Stead, Alfred. "Japan, our new ally"刊 *アンガー(Unger, Mary E.)"The favourite flowers of Japan"東京刊。木版画32枚挿入
1903 明治36	*ナポリ(伊)大学に日本語コースが設けられる	*ギューリック"Evolution of the Japanese; social and psychic"ニューヨーク刊。アメリカの宣教師による日本人論 *レガメー「日本素拙紀行」パリ刊。394挿絵挿入 *マードック【日本史 A history of Japan】(全3巻~1925)刊。第1巻は山県五十雄と共著 *岡倉天心"The ideals of the East"刊 *セルギイ(Sergii 1867~1944)【学院セルギイ北海道巡回記】刊。著者はロシア正教総主教 *シーボルト(Siebold, Alexander von 1846~1911)【シーボルト最後の日本旅行 Ph. Fr. von Siebold's Letzte Reise nach Japan 1859~1862】ベルリン刊。長男のアレクサンダーが執筆
1904 明治37		*ボンコンパニ・ルドヴィシ(Boncompagni-Ludovisi, Francesco)【日本使節考 Le prime due Aambasciate dei Giapponesi a Roma 1585~1615】ローマ刊。遣欧使節のこと

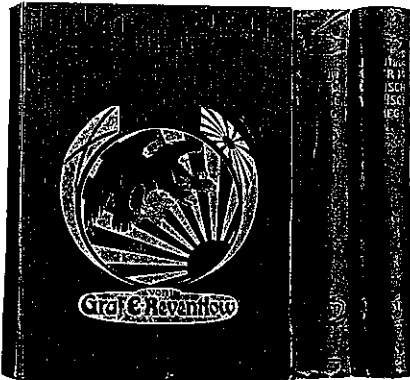


ロチ「お菊さん」(1887)

人 事	日本及び国外の日本	世 界	年代
<p>*アームストロング(Armstrong, Robert 1876~1929)。カナダのメソジスト教会宣教師来日</p> <p>*清国から留学生31人、第一高等学校への入学が決まる</p> <p>*シャンド(Shand, W. J.)、ロンドンにて日本語学校開校</p> <p>*ウエンクシュテルン(Wenckstern, Friedrich von 1859~1914)ドイツ人来日(教育、書誌、日本文化)</p>	<p>*日比谷公園開園(6月)</p> <p>*柴田環ら、最初のオペレッタ上演</p>	<p>*ライト兄弟、飛行機を発明</p>	1903 明治36
<p>*ピゴット(Piggott, Francis Stewart Gilderoy 1883~1966)イギリスの軍人、イギリス公使館付武官として来日(初来日は1888年の父親の Sir F. T. ピゴットとともに)</p>	<p>*日露戦争勃発(2月)</p> <p>*河口慧海「西藏旅行記」(上・下)(3月)(~1905)刊</p> <p>*日・韓協約(第1次)調印(8月)</p>	<p>*英仏協商調印</p> <p>*ダグラス(Douglas, Sir Robert Kennaway 1838~1913)“Europe and the Far East”刊</p>	1904 明治37



ハーン「日本：一つの解明」(1904)

年代	日本研究の歩み	文献年表
		<p>* ブラウン(Browne, George Waldo) "Japan; the place and the people" ボストン刊。多数の挿絵挿入</p> <p>* クラーク "Katz Awa; the Bismark of Japan, on the story of a noble life" ニューヨーク刊。勝海舟の伝記</p> <p>* ダイアー [大日本・東洋のイギリス 国民進化論の一研究 Dai Nippon, the Britain of the East: a study in national evolution] ロンドン刊</p> <p>* ハーン [日本: 一つの解明 Japan: an attempt at interpretation] ニューヨーク刊。最後の著書</p> <p>* Holland, Clive. "A Japanese romance" ロンドン、ニューヨーク刊。彩色挿絵挿入</p> <p>* カーミル [昇る太陽 Al-shams al-mushriqa] カイロ刊</p> <p>* ノックス "Japanese life in town and country" ニューヨーク、ロンドン刊。日本紹介書</p> <p>* モール (Mohl, Ottmar von 1846~1922) [ドイツ貴族の明治宮廷記 Am japanischen Hofe] ベルリン刊。外務省御雇外国人(ドイツ)の明治天皇の宮中に勤務した記録</p> <p>* 岡倉天心 [日本の目覚め The awakening of Japan] ニューヨーク刊</p> <p>* スレーデン (Sladen, Douglas) "Queer things about Japan" ロンドン刊。誇張され、コミック化された日本像</p> <p>* スタイヘン [キリシタン大名 Les Daimyo chrétiens, ou un siècle de l'histoire politique et religieuse du Japon, 1594~1650] 東京刊</p> <p>* ウィルソン (Wilson, Herbert Wrigley) [日露戦記 The story of the war between Russia and Japan] (~1905) ロンドン刊。多数の挿絵挿入</p>
<p>1905 明治33</p>	 <p>レーベントロー『日露戦争画報』</p>	<p>* アストン [神道 Shinto] 刊</p> <p>* ブロックハウス (Brockhaus, Albert) [根附 Netsuke] ライプチヒ刊。多数の挿絵挿入</p> <p>* ロイド (Lloyd, Arthur) "Admiral Togo" 東京刊。東郷平八郎の伝記書</p> <p>* モラエス [茶の湯 O culto do Cha] 神戸刊。彩色木版挿絵挿入</p> <p>* レーベントロー (Reventlow, Graf. E. zu) [日露戦争画報 Der russisch-japanische Krieg] (~1906) (全3巻) ベルリン刊。多数の挿絵挿入</p> <p>* リース [日本雑記 Allerlei aus Japan] ベルリン刊</p> <p>* シン (Singh, Jagatjit) "My travels in China, Japan and Java" ロンドン刊。インド・カプルターラ王国の王一行の極東旅行記。第3部が日本の部。旅程地図1葉、写真49枚挿入</p> <p>* Wrong, George M. "The Earl of Elgin" ロンドン刊</p>
<p>1906 明治39</p>	<p>* プリュッセル(ベルギー)にて「ベルギー・日本研究会」設立。機関誌『日本とベルギー Japon et Belgique』を発刊</p>	<p>* デイキンズ "Primitive and mediaeval Japanese" (Oxford)</p> <p>* フローレンツ [日本文学史 Geschichte der japanischen Litteratur] ライプチヒ刊</p>

人 事	日本及び国外の日本	世 界	年代
<p>*サンソム(Sansom, Sir George Bailey 1883~1965)イギリス人來日(外交, 日本文化)外交官のかたわら日本学者として活躍。後『日本史』(全3巻)刊</p> <p>*フィッセル(Visser, Marinus Willem de 1875~1930)オランダ人來日(駐東京オランダ公使館通訳官)</p>	<p>*ブッチーニ作曲オペラ『蝶々夫人』ミラノ・スカラ座で初演</p>		
<p>*藏季陶(1890~1949)日本に留学。号は天仇</p>	<p>*第2次日英同盟協定調印(8月)</p> <p>*ポーツマスで日露講和条約調印(南樺太、関東州を獲得)(9月)</p> <p>*第2次日韓協約調印(11月)</p>	<p>*ロシア、血の日曜日事件起こる</p> <p>*ノルウェー、スウェーデンより独立</p> <p>*第一次モロッコ事件起こる</p> <p>*アインシュタイン、特殊相対性理論を発表</p>	<p>1905 明治38</p>
<p>*グンデルト(Gundert, Wilhelm 1880~1971)ドイツ人來日(教育, 日本文化)</p> <p>*ペリオ(Pelliot, Paul 1878~1945)、フランス中央アジア探検隊長シルクロードの遺跡調査を行う</p>	<p>*ガーター勲章贈呈の英国使節団一行、横浜に入港(2月)</p> <p>*日本社会党結成(2月)</p> <p>*鉄道国有法公布(3月)</p>	<p>*ノルウェーの探検家アムンゼン、北極海を横断</p> <p>*ペリオ、敦煌・トルキスタン探検</p>	<p>1906 明治39</p>

年代	日本研究の歩み	文献年表
		<ul style="list-style-type: none"> *大日本文明協会編・刊『欧米人の日本観』(全3巻) *クプチンスキー(Kupchinskii, F. P.)『松山捕虜収容所日記：ロシア将校の見た明治日本』ペテルブルグ刊。著者は日露戦争中に捕虜となった *ミットフォード『英国貴族の見た明治日本 The Garter mission to Japan』ロンドン刊。英国国王の甥にあたるコンノート殿下の使節団一行の首席随員として、約40年ぶりに訪れた時の日記風の記録 *モリス(Morris, John)『The makers of Japan』ロンドン刊。明治天皇他21人の政治家人物伝 *岡倉天心『茶の本 The book of tea』ニューヨーク刊 *パピノ師『日本史・日本地理辞典 Dictionnaire japonais-français d'histoire et géographie du Japon』東京刊。1899年の改訂版
1907 明治40	* ニューヨークに「ジャパン・ソサエティ Japan Society Inc.」設立	<ul style="list-style-type: none"> * Finnemore, John. "Japan" ロンドン刊。子供向けの日本紹介書。色刷のスケッチ挿入 * クラウス(Krauss, Friedlich Salomo 1859~?)『性風俗の日本史 Das Geschlechtleben in Glauben, Sitte, Brauch und Gewohnheitsrecht der Japaner』刊。著者はユーゴスラビアのスラブ民俗学者。来日経験はない。(増補改訂版 1910刊)。文献を駆使して日本人の性生活を描く * ノックス"The development of religions in Japan" ニューヨーク、ロンドン刊 * クルト(Kurth, Julius)『歌麿 Utamaro』ライブチヒ刊。45図版(5彩色版)挿入 * 大隈重信撰『開国五十年史』(3冊~1908)刊 * ラートゲン"Staat und Kultur der Japaner"ブルーフェルト、ライブチヒ刊。日本史入門書。155写真挿入
1908 明治41		<ul style="list-style-type: none"> * Du Cane, Florence. "The flowers and gardens of Japan" ロンドン刊。日本の庭園と花と樹木についての書。50の彩色挿絵挿入 * ポズニューエフ(Pozdneev, D. M. 1865~1942)『初級日本語文法』ペテルブルグ刊 * シュワルツ(Schwartz, Henry B.)『薩摩国滞在記 宣教師の見た明治の日本 In Togo's country ; some studies in Satsuma and other little known parts of Japan』刊
1909 明治42	* 日仏協会創設	<ul style="list-style-type: none"> * 河口慈海『西藏旅行記 Records of a Tibetan journey』(英訳)刊 * ケーラー『日本キリスト教史 A history of Christianity in Japan』(全2巻)ニューヨーク刊 * ダイアー『世界政治における日本 国際政治動学の一研究 Japan in world politics : a study in international dynamics』ロンドン刊 * リー(Lea, Homer)『日米必戦論 The valor of ignorance』ニューヨーク、ロンドン刊

人 事	日本及び国外の日本	世 界	年代
<p>*周作人(1885~1967)(魯迅の実弟)日本で医学を学ぶ為に来日。後、日本文化、日本文学に傾倒す</p> <p>*ウォーナー(Warner, Langdon 1881~1955)アメリカの東洋美術研究家初来日。太平洋戦争中に大統領に働きかけ、京都・奈良を爆撃から救うために尽力</p>	<p>*南満州鉄道株式会社(満鉄)設立(11月)イギリスの東インド会社をモデルにした</p>		
	<p>*第3次日韓協約調印(7月)</p> <p>*日露通商航海条約・漁業協約調印(7月)</p> <p>*第1回日露協約調印</p> <p>*アダムズ[ヘンリー・アダムズの教育]刊</p>	<p>*英仏露3国協商成立</p> <p>*英領ニューゼaland連邦成立</p>	<p>1907 明治40</p>
<p>*エリセーエフ(Elisseeff, Serge Grigorievich 1889~1975)東京帝国大学に入学のため初来日</p> <p>*荻原守衛帰国。ロダンの作風を移入</p>	<p>*朝日新聞主催の世界一周会、横浜を起航(3月)96日間かかった</p> <p>*初のブラジル移民783名、神戸を出発(4月)</p>	<p>*青年トルコ党の革命起こる</p>	<p>1908 明治41</p>
<p>*リーチ(Leach, Bernard Howell 1887~1979)イギリスの陶芸家来日。柳宗悦、浜田庄司らの民芸運動に参加</p> <p>*ノーマン(Norman, Egerton Herbert 1909~1957)カナダの外交官、日本研究家生まれる</p> <p>*スタンフォード大学においてトリート(Treat, Payson J.)が東南アジア近代史の講義を開始</p>	<p>*東京市、ワシントン市に桜2000本の寄贈を決定。後のポトマック河畔の桜として有名となる</p> <p>*日本・メキシコ間に定期汽船航路開設</p> <p>*伊藤博文、ハルビン駅頭で射殺される(10月)</p>	<p>*ベアリー、北極点に到達</p> <p>*ジード「狭き門」刊</p> <p>*メーテルリンク「青い鳥」刊</p>	<p>1909 明治42</p>

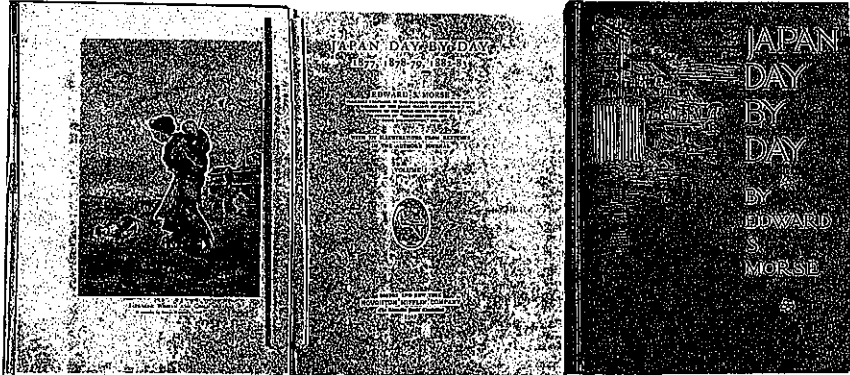
年代	日本研究の歩み	文献年表
1910 明治43	<p>*東京帝国大学史料編纂掛「大日本古文書・幕末外国関係文書」刊行開始</p> <p>*東洋実践アカデミー(露)設置。日本語講座を開設</p>	<p>*バレー(Ballet, Jean Cyprien)「日本の軍隊 Le Japon militaire」横浜刊。長期にわたる滞日経験のある私人ジャーナリストによる日本陸海軍の研究</p> <p>*ケラーマン(Kellermann, Bernhard)「日本散歩 Ein Spraziergang in Japan」ベルリン刊。ドイツ人作家の日本印象記</p> <p>*クルト「写楽 Sharaku」ミュンヘン刊</p> <p>*クルト「鈴木春信 Suzuki Harunobu」ミュンヘン刊</p> <p>*ロングフォード「旧日本物語 The story of old Japan」ロンドン刊</p> <p>*ルヴォン「日本文学詞華集“Anthologie de la littérature japonaise des origines au XXe siècle”」パリ刊</p> <p>*ポンティング(Ponting, Herbert George 1870~1935)「英国特派員の明治紀行 In lotus land Japan」ロンドン刊。イギリスの写真家による日本見聞記。著者の撮影した96点の写真挿入</p> <p>*サトウ「ケンブリッジ現代歴史」4巻に「19世紀の日本と中国」を執筆</p> <p>*ウィリアムズ(Williams, Samuel Wells 1812~1884)「ペリー日本遠征随行記 A journal of the Perry expedition to Japan 1853~1854」(「日本アジア協会紀要」37巻2号)に発表</p>
1911 明治44	<p>*日独協会設立。両国の友好関係の奨励を目的</p>	<p>*コンドル“Paintings and studies by Kawanabe Kyosai”刊</p> <p>*ガビンス“Tho progress of Japan, 1853~1871”刊</p> <p>*ロングフォード“Japan of the Japanese”ロンドン刊</p> <p>*モリソン(Morrison, Arthur)“Painters of Japan”(全2巻)ロンドン刊。122図版挿入</p>
1912 明治45 大正特	<p>*コルデイエ(Cordier, Henri 1849~1925)「日本書誌 Bibliotheca Japonica」パリ刊。先行のバジェス、ウエンクシュテルン、ナホッドの書誌とは系列外であるが、古欧文日本関係文献を調べる基本的な書誌</p> <p>*ペテルブルグ大学中国・日本学部学位授与制度開始</p>	<p>*ダネタン夫人(d'Anethan, Eleanora Mary)“Fourteen years of diplomatic life in Japan”ロンドン刊。著者はベルギー国駐日公使アルベット・ダネタン男爵夫人である。日記を元に滞日経験を綴った</p> <p>*フェロノサ「東亜美術史綱 Epochs of Chinese and Japanese art」ロンドン刊</p> <p>*ケラーマン「サッサ・ヨイヤサ Sassa yo yassa ; Ja-</p>

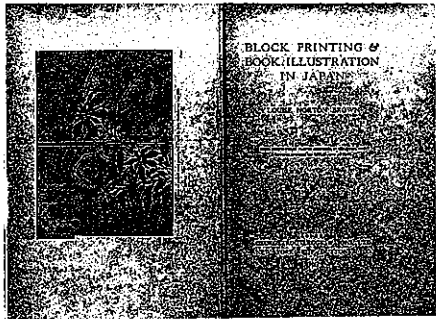
人 事	日本及び国外の日本	世 界	年代
<p>*ライシャワー(Reischauer, Edwin Oldfather 1910~)アメリカの日本研究家、大使生まれる</p>	<p>*アメリカ人観光旅行団一行横浜に到着(1月) *日英博覧会がロンドンで開かれる。多数の古美術品が展示され、また御本本真珠や緑茶などが評判になる(5月) *大逆事件(5月) *韓国併合に関する日韓条約調印(8月) *メキシコ独立100年祭を祝い、日本博覧会がメキシコで開催される(9~10月) *白瀬中尉ら、南極探検隊東京芝浦を出帆(11月)(~1912.5) (この年) *柳田国男「遠野物語」刊 *日本・コロンビア修好通商条約調印</p>	<p>*ポルトガル王国、共和国となる *英国自治領として南アフリカ連邦成立 *モーガン、遠伝子説を発表</p>	<p>1910 明治43</p>
<p>*アストン没。その蔵書はケンブリッジ大学図書館へ寄贈される</p>	<p>*オーストリアの軍人レルヒ、新潟県高田で陸軍青年将校に初めてスキーを指導(1月) *鈴木梅太郎ら、オリザニン(ビタミンB1)を検出(1月) *西田幾多郎「善の研究」刊(1月) *日米新通商航海条約調印。関税自主権の確立(2月)。以後各国とも調印 *ローマにて万国美術博覧会が開催され、日本画、洋画、彫刻を出品(3月) *平塚らいてうら、青踏社発起人会(6月) *野口英世、スピロヘータの純粋培養に成功(7月) *イブセン作・島村抱月訳「人形の家」初演(9月)</p>	<p>*第二次モロッコ事件起こる *トリポリ戦争始まる *辛亥革命(中国)起こる *アムンゼン南極点に到達</p>	<p>1911 明治44</p>
	<p>*白瀬中尉の南極探検隊、南緯80度5分に至る(1月) *明治天皇が没する。皇太子嘉仁親王が踐祚(7月)</p>	<p>*中華民国成立・清朝滅亡 *ストックホルムで第5回オリンピックが開かれ、日本の2選手が初参加</p>	<p>1912 明治45 大正元年</p>

年代	日本研究の歩み	文献年表
		<p>panische Tänze]ベルリン刊。宮津のお茶屋での一晚の遊びをつづった珍しい書</p> <p>*二宮尊徳[報徳記 A peasant sage of Japan, tr. by Tadasu Yoshimoto]ロンドン刊</p> <p>*新渡戸稲造“The Japanese nation”ニューヨーク刊</p> <p>*ボズニューエフ[明治日本とニコライ大主教]刊</p>
1913 大正2	*ハーバード大学に日本文明講座開設。姉崎正治、日本宗教史などを講義	<p>*オーズリー“Gems of Japanese art and handicraft”ロンドン刊。多数の彩色石版画挿入</p> <p>*チェンバレン“A handbook to Japan”ロンドン刊</p> <p>*ピゴット(子)“The elements of sosho”刊</p> <p>*ウォッシュバン(Washburn, Stanley)[乃木 Nogij]ロンドン、ニューヨーク刊。著者はアメリカの新聞記者</p>
1914 大正3	*ハンブルク大学に日本研究所設立	<p>*ディキンソン(Dickinson, G. Lowes) “An essay on the civilizations of India, China and Japan”ロンドン、トロント刊。来日経験のあるイギリス人による3国の文明批評の書</p> <p>*ギューリック“The American Japanese problem”ニューヨーク刊</p> <p>*コステイレフ、ペー・ヤー[露日会話辞典]刊</p>
1915 大正4		<p>*プリンクリー、菊池大麓共著“History of the Japanese people from the earliest times to the end of Meiji era”ニューヨーク刊</p> <p>*グリフィス[ミカド 日本の内なる力 The Mikado: Institution and person]プリンストン大学刊。見聞記を越えた日本研究書</p> <p>*ギューリック“Working women of Japan”ニューヨーク刊</p> <p>*ミットフォード[回想録 Memories](全2巻)ロンドン刊</p> <p>*サンダース(Sanders, Thomas)“My Japanese year”来日経験のあるイギリス人による日本滞在記</p> <p>*イェイツ(Yeats, William Butler 1865~1939)[鷹の井](劇作)刊</p>
1916 大正5		<p>*マクラレン(McLaren, Walter Wallace)[日本政治史 A political history of Japan during the Meiji era, 1867~1912]ロンドン刊</p> <p>*ストレイト(Streit, Robert & Dindinger, J.)“Bibliotheca missionum”(全25巻)世界のカトリック伝道に関する書誌として最も著名なもの。日本の部あり</p>
1917 大正6	*オランダ、ライデン大学で日本語講座再開 *ロンドン大学東洋学部 School of Oriental and African Studies, University of London (SOAS)設立	<p>*[ロンドン大学東洋学部研究 Bulletin of the School of Oriental and African Studies, London University]創刊</p> <p>*モース [日本その日その日 Japan day by day 1877,</p>

人 事	日本及び国外の日本	世 界	年代
*ジャイアンツ・ホワイソックス連合の世界一 野球チーム来日(米大リーグとして初来日)	*日本政府、中華民国を承認する (10月)		1913 大正2
*コンラッド(Konrad, Nikolai Iosifovich 1891 ~1970)ロシア人、留学生として初来日(日本語研究、 日本文学翻訳) *日独戦争により、スパン(Spann, Alexander)捕 虜として久留米に到着	*シーメンス事件(1月) *ドイツに宣戦布告(8月)	*第一次世界大戦勃発(~1919) *パナマ運河開通	1914 大正3
*ネフスキー(Nevskii, Nikolai A. 1892 ~ 1945?)ロシア人、留学生として初来日(教育、日本民 俗学)	*中国政府に対華21ヶ条要求を提 出(1月)	*パナマ運河開通と、太平洋発見 400年を記念して、サンフランシス コで万国博覧会開催	1915 大正4
*エリセーエフ、ペトログラード大学の日本語教師 となる。 *ライト(Wright, Frank Lloyd 1869~1959)アメ リカの建築家来日(旧帝国ホテル等の設計) *タゴール(Tagore, Rabindranath 1861~1941) アジア人として最初にノーベル文学賞(1913)を受 賞したインドの文学、哲学者初来日(以後数回来日)		*アインシュタイン、一般相対性 原理を発表	1916 大正5
*イギリスのジャーナリスト、モリソン(Morrison, George Ernest 1862~1920)が収集した中国を主 とした極東諸国関係図書(モリソン文庫)が岩崎久弥 によって購入される(後、東洋文庫と改称)	*石井・ランシング協定(11月)	*ロシア革命	1917 大正6

年代	日本研究の歩み	文献年表
	<ul style="list-style-type: none"> *日米協会設立。日米間の民間外交の推進に貢献 *上海に内山書店開店 	<p>1878～79, 1882～83(全2巻)ボストン刊 *ボンソンビ・フェーン“The imperial family of Japan” 神戸刊 *スバルピン【横眼で見た日本】新潮社刊 *タゴール【ナショナリズム Nationalism】ニューヨーク刊</p>
<p>1918 大正7</p>	<ul style="list-style-type: none"> *シドニー大学(オーストラリア)に東洋学科創設 	<ul style="list-style-type: none"> *ハワード(Howard, Ethel 1865～1931)【薩摩国見聞記 英国人の見た明治の日本 Japanese memories】刊 *ケーベル【ケーベル博士小品集 Kleine Schriften】岩波書店 *ネフスキー【月と不死】他執筆(～1928)。日本民族学関係の論文 *魯迅【狂人日記】刊 *ウェストン【極東の遊歩道 The playground of the Far East】刊。主に北アルプスの登山記録
<p>1919 大正8</p>	<ul style="list-style-type: none"> *イルクーツク大学(ロシア)に日本部門設置 *ワルシャワ大学(ポーランド)に日本語コース開設 *白耳義(ベルギー)協会発足 	<ul style="list-style-type: none"> *カイザーリング(Keyserling, Graf Hermann 1880～1946)【旅日記 Das Reisetagebuch eines Philosophen】シュトゥットガルト、ベルリン刊。アジア旅行の記録。日本の部第65章 *タゴール【日本旅行記】を著す *ウェイリー【日本の詩・歌 Japanese poetry; the “uta”】オックスフォード刊
<p>1920 大正9</p>	<ul style="list-style-type: none"> *ハンブルグ大学(ドイツ)に日本語講座設置 *パリ大学文学部(ソルボンヌ)に日本文明講座開設 *ウラジオストックの東洋大学、極東大学東洋学部を改組 	<ul style="list-style-type: none"> *【更科日記・紫式部日記・和泉式部日記 Diaries of court ladies of old Japan, tr. by Annie Shepley Omori and Kochi Doi】ボストン刊
<p>1921 大正10</p>	<ul style="list-style-type: none"> *ソ連科学アカデミー東洋学研究所開設。日本学・朝鮮学研究室を設置 	<ul style="list-style-type: none"> *アームストロング“Just before the dawn; the life and work of Ninomiya Sontoku”ニューヨーク刊。二宮尊徳の研究書 *エリオット (Eliot, Charles) 【ヒンズー教と仏教 Hinduism and Buddhism】ニューヨーク刊 *エリセーエフ【赤露の人質日記】大阪朝日新聞に連載 *ケーベル【ケーベル博士続小品集 Kleine Schriften.

人 事	日本及び国外の日本	世 界	年代
<p>*マードック教授、シドニー大学において日本語講座開講のためオーストラリアに渡る</p>			
			
<p>モース「日本その日その日」(1917)</p>			
<p>*角田柳作、アメリカ本土に移住。コロンビア大学に日本文化研究所開設。後、多くの日本研究者を育てた</p>	<p>*シベリア出兵(8月) *米騒動始まる(8月)</p>	<p>*シュペングラ―「西洋の没落」刊 (~1922) *ポーランド独立宣言</p>	<p>1918 大正7</p>
<p>*アメリカの哲学者デューイ (Dewey, John) 来日 *ポンソンビ・フェーン (Ponsonby-Fane, Richard 1878~1937) イギリスの日本文化研究者(特に神道研究者)日本に永住。漢字名：本尊美 *ウィリアムズ (Williams, Harold S. 1898~) オーストラリア人来日 (貿易商)</p>	<p>*大原社会問題研究所設立(2月) *京城・平壤などで朝鮮独立運動起こる (3.1運動・万歳事件) (3月)</p>	<p>*アメリカで禁酒法成立 *朝鮮で独立運動が全土に広がる *ベルサイユ講和条約調印</p>	<p>1919 大正8</p>
	<p>*日本最初のメーデー、上野公園で開催(5月) *第1回国勢調査施行(10月) *第一次世界大戦の戦勝国となり、ドイツ領だった南洋群島を委任統治(12月)</p>	<p>*国際連盟発足 *アメリカでラジオ放送開始</p>	<p>1920 大正9</p>
<p>*ケーリー (Cary, Otis 1921~) 北海道小樽市に生まれる。14歳で帰国し、アーモスト大卒 *クロードル (Clandel, Paul 1868~1955) 駐日フランス大使として来日 *エリセーエフ、フランスに亡命(のち帰化) *ラッセル (Russell, Bertrand 1872~1970) イギリスの哲学者来日。ラッセル・ブーム起こる</p>	<p>*メートル法採用(4月) *横有恒ら、アイガー東山稜初登頂(9月) *原首相、東京駅頭で刺殺される(11月) *日英米仏4ヶ国条約成立し、日英同盟破棄(12月)</p>	<p>*国際ペンクラブ創設(本部：ロンドン) *中国共産党成立 *魯迅「阿Q正伝」刊</p>	<p>1921 大正10</p>

年代	日本研究の歩み	文献年表
		<p>Neue Folge]岩波書店 *コンラッド露訳[伊勢物語]刊 *カイパー(Kuiper, J. Feenstra)“Japan en de Beuitenwereld in de achttiende eeuw”ハーグ刊。7挿絵挿入 *魯迅[阿 Q 正伝]を新聞[晨报]に連載 *ストリート(Street, Julian)[神秘の日本 Mysterious Japan]ニューヨーク刊 *サトウ[一外交官の見た明治維新 A diplomat in Japan]ロンドン刊。幕末、維新の種々の重大事件に関して積極的な役割をつとめた青年外交官の記録。維新史研究の貴重な史料 *鈴木大拙、“Eastern Buddhist”創刊 *トリート[日米外交史 Japan and the United States, 1853~1921]ボストン、ニューヨーク刊 *ウェイリー[日本の能 The Nô plays of Japan]刊。</p>
1922 大正11	*ポーランド東洋協会設立	<p>*ベルツ“Awakening Japan”刊 *デネット(Dennet, T.)“Americans in eastern Asia ; a critical study of the policy of United States with reference to China, Japan and Korea in the 19th century”ニューヨーク刊 *Wakameda, Takeji英訳[古今和歌集 Early Japanese poets]ロンドン刊</p>
1923 大正12	*マトヴェーエフ、ポポフ共編[日本書誌]ウラジオストック刊。旧ソ連における最初の日本に的をしばった書誌	<p>*ルイス(Lewis, W. S.)、村上直次郎“Ranald Macdonald”ワシントン刊。16図版、3地図挿入 *シュールハンメル(Schurhammer, George) [神道 Shin-Tô]ボン刊。独・英対応テキスト。多数の挿絵挿入 *ヴィリオン(Villion, Aimé)“Cinquante ans d'apostolat au Japon”香港刊。折込地図 *ウィット(Vitte, S. Y. 1849~1915) [日露戦争と露西亜革命：ウィット伯回顧録]刊 *ウォーナー“Japanese sculpture of the Suiko period”刊</p>
1924 大正13	<p>*日仏会館、東京に設立 ブラウン[日本の版画と絵本]</p> 	<p>*ブラウン(Brown, Louise Norton) [日本の版画と絵本 Block printing and book illustration in Japan]ロンドン刊。43図版挿入 *独文雑誌“Das Junge Japan”(『若い日本』)発行 *景梅九[留日回顧：中国アナキストの半生]刊 *コンラッド露訳[紫式部-源氏物語より]レニングラード刊 *モラエス[おヨネとコハル O-Yoné e Ko-haru]オポルト刊 *モラエス[日本歴史 Relance da historia do Japão]リスボン刊 * [日本アジア協会紀要 Transactions of the Asiatic Society of Japan, 2nd series]創刊(~1940)</p>

人 事	日本及び国外の日本	世 界	年代
<ul style="list-style-type: none"> *ロシアのヴァイオリン奏者ジンバリスト(Zimbalist, Efrem 1889～)初来日 *ドイツの物理学者アインシュタイン(Einstein, Albert)来日 *ネフスキー、宮古島を初訪問 *パーマー(Palmer, Halold E. 1877～1949)イギリス人来日(英語教育、オーラル・メソッド提唱者) 	<ul style="list-style-type: none"> *パリの国民美術協会サロンで日本美術展開催(4月) *アメリカの建築家ライト設計の「帝国ホテル」完成(7月) *日本共産党、非合法に結成(7月) 	<ul style="list-style-type: none"> *ソビエト社会主義共和国連邦成立 	1922 大正11
<ul style="list-style-type: none"> *オーストリアのヴァイオリン奏者・作曲家クライスラー(Kreisler, Fritz)来日 	<ul style="list-style-type: none"> *「文藝春秋」創刊(1月) *関東大震災(9月) 	<ul style="list-style-type: none"> *トルコ共和国成立 	1923 大正12
<ul style="list-style-type: none"> *アグノエール(Haguenuer, Charles 1896～1977)フランスの日本学者来日 *【東洋文庫蔵モリソン文庫目録 Catalogue of the Asiatic Library of Dr. G. E. Morrison, now a part of the Oriental Library Tokyo, Japan】(全2巻)刊 	<ul style="list-style-type: none"> *築地小劇場開場(6月) 	<ul style="list-style-type: none"> *ロンドン・オリンピックを記念して、ロンドン万国博覧会開催(～25) *レーニン没 	1924 大正13

年代	日本研究の歩み	文献年表
		<p>*ペレス(Pérez, Lorenzo)「ベアト・ルイス・ソテロ伝：慶長遣欧使節のいきさつ Apostolado y martirio del Beato Luis Sotelo en el Japón」刊</p>
1925 大正14		<p>*グラフ(Graf, Oskar und Cäcilie)「Japanisches Gespensterbuch」シュツットガルト刊。142彩色・モノクロ図版挿入</p> <p>* Kincaid, Zoë. “Kabuki” ロンドン刊</p> <p>* 国民外交叢書社「近代中日関係略史1871～1924」中華書局</p> <p>* Maybon, Albert. “Le théâtre japonais”パリ刊</p> <p>* 夏目漱石著、スパン(Spann, Alexander)訳「坊ちゃん」刊</p> <p>* シュトラッツ(Stratz, Carl Heinrich 1858～1924)「日本人のからだ Die Körperformen in Kunst und Leben der Japaner」刊。著者は来日経験のあるオランダの婦人科医</p> <p>* ウェイリー訳「源氏物語 The tale of Genji」(全6巻～1933) ロンドン刊。独学で日本語をマスターし、この訳業を8年かけて達成</p> <p>* ウェストン「知られざる日本の放浪者 A wayfarer in unfamiliar Japan」ロンドン刊</p>
1926 大正15 昭和元	<p>* 太平洋問題調査会 (Institute of Pacific Relations) 設立。アジア太平洋地域の調査研究・相互理解を目的とする</p> <p>* ベルリン大学日本研究所創立</p>	<p>* 有島武郎「或る女」露訳</p> <p>* クライド, P. H. 「満州における国際争覇 International rivalries in Manchuria, 1689～1922」刊</p> <p>* フロイスの「日本史」、シュールハンメル師、フォレッツ氏 (Voretzsch, E. A.) により独訳</p> <p>* 魯迅「藤野先生」</p> <p>* Romanné-James, Constance. “O Toyo writes home” ロンドン刊。イギリス人による書簡体小説</p> <p>* 「短歌集」露訳刊</p> <p>* ウェストン “Japan” ロンドン刊。近代日本紹介書</p> <p>* コルパクチャー (Kolpakchi, E. M. 1902～1952) 露訳「大和物語」レニングラード刊</p>
1927 昭和2	<p>* 日独文化協会、京都に設立</p>	<p>* アームストロング “Buddhism and Buddhists in Japan” 刊</p> <p>* クローデル「朝日の中の黒い鳥 L’Oiseau noir dans le soleil levant」パリ刊。日本文化のエッセー。朝日は日本を、黒い鳥は著者を表す</p> <p>* フェリドマン露訳「古事記」レニングラード刊</p> <p>* ゴールドシュミット (Goldschmidt, Richard B. 1878～1958) 「大正時代の沖縄 New-Japan」刊</p> <p>* ケンペル「日本史」をショイヒツェル (Scheutzer, John Gaspar) が英訳</p> <p>* 夏目漱石「門」仏訳</p> <p>* シュワルツ (Schwartz, William Leonard) 「近代フランス文学にあらわれた日本と中国 The imaginative</p>

人 事	日本及び国外の日本	世 界	年代
	<ul style="list-style-type: none"> *日ソ基本条約調印(国交回復) (1月) *東京放送局(後のNHK)試験放送開始(3月) *成人男子による普通選挙実施(3月) *治安維持法(3月) 	<ul style="list-style-type: none"> *アメリカ、実用的テレビジョンの発明 	1925 大正14
	<ul style="list-style-type: none"> *大正天皇が没する、皇太子裕仁親王が踐祚(12月) *改造社「現代日本文学全集」刊行開始(12月)。円本時代始まる 	<ul style="list-style-type: none"> *アメリカ建国150年を記念して、フィラデルフィアで万国博覧会開催 	1926 大正15 昭和元年
	<ul style="list-style-type: none"> *南京事件起こる(3月) *金融恐慌始まる(3月) *立憲民政党結成(6月) *初めての地下鉄、上野―浅草間に開通(12月) 	<ul style="list-style-type: none"> *リンドバーク、大西洋横断飛行に成功 	1927 昭和2

年代	日本研究の歩み	文献年表
		interpretation of the Far East in modern French literature 1800-1925]刊 * スパン[日本週報 Japan Woche]神戸刊(独語雑誌) * 鈴木大拙“Essays in Zen Buddhism”ロンドンで刊(vol.2: 1933, vol.3: 1934)
1928 昭和3	* ハーバード大学燕京研究所(Harvard-Yenching Institute)設立 * ナホッド他[日本帝国書誌 Bibliographie von Japan, 1906~1937]ライプツィヒ刊。ウエンクシュルテンの『大日本書史』の続編として、3人のドイツ人の手によって編集された膨大な日本関係書誌である * 北京大学日本語科創設	* ボクサー“A Potugese embassy to Japan 1644~1647”刊 * ケーベル[ケーベル博士随筆集]岩波文庫 * ロマーノフ, B. A. [満州における露国の利権外交史]刊 * ショットレンダー(Schottlaender, Felix)[エルウィン・フォン・ベルツ: 日本に於ける一ドイツ人医師の生涯と業績 Erwin von Baelz 1849~1913; Leben und Wirken eines deutschen Arztes in Japan]刊 * 謝晋青[日本民族性的研究]商務印書館 * [新生命](中国)第7号、「日本研究特集」を組む * 戴季陶[日本論]上海民智書局刊。中国人によって著された日本研究の嚆矢
1929 昭和4	* ボン大学日文学科設置 * コロンビア大学、日本研究開始(サンソム、角田柳作ら)	* 朝河貫一[入来文書 The documents of Iriki]刊 * ラトウレット(Latourette, Kenneth Scott), “A history of Christian missions in China”ニューヨーク刊 * 英訳[万葉集 The Manyōshū](全20巻)Pierson, J. L. 訳(~1964) * Paske-Smith, M. (1886~1946) “Western barbarians in Japan and Formosa in Tokugawa days, 1603~1868”神戸刊 * ウェイリー訳[清少納言・枕草子 The pillow book of Sei Shonagon]ロンドン刊 * 雑誌[やまと Yamato]ベルリンにて創刊(~1932) * ズナメンスキー(Znamenskii, S.) [ロシア人の日本発見: 北太平洋における航海と地図の歴史]刊
1930 昭和5	* オランダ・ユトレヒト大学インド学研究基金に日本語・日本文学の特別講座設立(1948年閉じる) * 日加協会設立	* コセンザ(Cosenza, M.D.)編 [ハリス日本滞在記 The complete journal of Townsend Harris]ニューヨーク刊 * ハウスホーファー(Haushofer, Karl 1869~1946) [日本 Japans Reichserneuerung - Strukturwandlungen von der Meiji-Aera bis Heute, Alt-Japan Werdegang von der Urzeit bis zur Grossmacht - Schwelle]刊(~1938)。著者はドイツの政治地理学者。2つの論文に発表になったものを翻訳編集した * ハヴラサ(Havlasa, Jan 1883~1964) [日本の秋: わが生涯の断片 Japonsky' podzim, Zlomsky zivot]刊。著者はチェコスロバキアの旅行家、文筆家 * ムッチョーリ(Muccioli, Marcello) [方丈記]を伊訳 * [日本研究]創刊。中国で最初の日本研究専門誌

人 事	日本及び国外の日本	世 界	年代
<p>*ダニエルズ(Daniels, Frank 1900~1983)イギリス人來日。日本語教育。ロンドン大学東洋学部などで日本語教育にあたる。彼の指導の下で R.ドーア、P.オニール、I.ニッシュ、C.ダンなどが育つ</p> <p>*ラウレス(Laures, Johannes 1891~1959)ドイツの日本キリシタン史研究家來日。上智大学教授を勤めた</p>	<p>*最初の衆議院議員男子普通選挙(2月)</p> <p>*トーキー映画初輸入(4月)</p> <p>*治安維持法改正(6月)</p> <p>*第9回オリンピック(アムステルダム)で三段跳びの織田幹雄が金メダル</p> <p>*日西墨3国国交発祥記念碑塔(メキシコ塔)千葉県に建設される</p>	<p>*蒋介石、国民政府の首席に就任</p> <p>*フレミング、ペニシリン発見</p>	<p>1928 昭和3</p>
<p>*モラエス、徳島にて没。遺品・蔵書は徳島光慶図書館に寄贈(1945年の空襲でモラエス文庫も全焼)</p> <p>*サトウ、イギリスにて没</p>	<p>*ドイツの飛行船ツェッペリン伯号、霞ヶ浦飛行場に着陸(8月)</p>	<p>*ニューヨーク株式市場大暴落、世界恐慌始まる</p>	<p>1929 昭和4</p>
<p>*ボクサー(Boxer, Charles Ralph 1904~)イギリスの日本学者初來日。専門は日欧交渉史。日本語のみならず西語、ポルトガル語、蘭語にも通じていた</p> <p>*ヴォーゲル(Vogel, Ezra F.)アメリカの社会学者生まれる。日本研究家のみならず、中国問題の専門家でもある</p>	<p>*金輸出解禁(1月)</p> <p>*台湾に反日運動起こり、軍隊が鎮圧(10月)霧社事件</p> <p>*浜口首相、東京駅で狙撃される(11月)</p> <p>(この年)</p> <p>*ベルギー独立100年を記念して、リエージュで万国博覧会開催。わが国から初めて理化学機械や電気機械などの工業製品を出品</p> <p>*世界恐慌、日本に波及</p>	<p>*ロンドン海軍軍縮条約調印</p> <p>*英・イラク同盟条約締結</p> <p>*英・印円卓会議開催</p> <p>*パウンド、E.『詩篇The Cantos』刊行始まる</p>	<p>1930 昭和5</p>

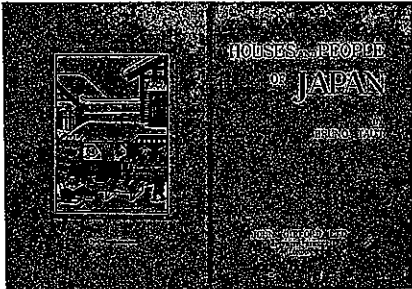
年代	日本研究の歩み	文献年表
1931 昭和6	*ライプツヒ大学に日本学講座設立	<ul style="list-style-type: none"> *アトレイ (Atley, F.) [極東に於ける綿業 Lancashire and Far East]刊。原書は露語 *ベルツ[ブルツの日記 Erwin Bälz, das Leben eines deutschen Arztes im erwachenden Japan]シュツットガルト刊。当時の社会を知る貴重資料 *クラム(Cram, Ralph Adams 1863~1942)“Impressions of Japanese architecture”ロンドン、ボンベイ、シドニー刊。来日経験のあるアメリカ人建築家による日本印象記 *エチオピアのヘルイ外相(Herui, Blatien Gueta)[日本国]刊(アムハラ語) *「日本評論」(中国)創刊 *ポポフ(Popov, Constantin)[日本経済地理]刊 *サンソム[日本文化史 Japan; a short cultural history]刊 * Schilling, Dorotheus.[日本における耶蘇会の学校制度 Das Schulwesen der Jesuiten in Japan 1551~1614]ミュンヘン刊 *銭亦石[日本帝国主義的政治状況]崑崙書店 *フェリドマン、島崎藤村の「破戒」を露訳
1932 昭和7	*日本学術振興会設立	<ul style="list-style-type: none"> *ベルクマン(Bergman, Sten)[千島紀行 Die Tausend Inseln im Fernen Osten]刊。スウェーデンの生物学者、探検家による千島紀行 *チェンバラレン[古事記]英訳 *黄炎[中日貿易略史]中華書局 *リットン(Lytton, V. A. G. R., 2nd Earl of 1876~1947)[リットン報告書 The report of the commission of enquiry into the Sino-Japanese dispute]刊。柳条湖事件の実情調査書 *王荃生(1901~1980)[日中外交六十年史]刊
1933 昭和8	<ul style="list-style-type: none"> *イタリア中東・極東協会(IsMEO)創立 *ソ連に日本研究協会発足 	<ul style="list-style-type: none"> *ボノー(Bonneau, Georges)[古今集]を仏訳 *コルパクチャー[日本語口語入門書]刊 *メーソン(Mason, Joseph Warren Teets 1879~1941)[神ながらの道 Kan Ngagara No Michi]刊 *シュネー(Schnee, Heinrich 1871~1949)[「満州国」見聞記 リットン調査団同行記 Völker und Mächte im Fernen Osten; Eindrücke von der Reise mit Mandschrei-Kommission]ベルリン刊 *本野盛一仏訳[竹取物語 La légende de la demoiselle de lumière]パリ刊。長谷川潔による32図の銅版挿画付き
1934 昭和9	<ul style="list-style-type: none"> *パリ大学に日本研究所設置 *国際文化振興会発会式行われる *ドイツ文化研究所(京都)設立(1946年に西洋文化研究所と改称) 	<ul style="list-style-type: none"> *アトレイ[日本の粘土の足]発表 *福沢諭吉[福翁自伝 The autobiography of Fukuzawa Yukichij] (英語初版)東京刊 *コルパクチャー[日本語]刊 *コンラッド[日本語口語文法小論]刊 *野口米次郎[広重 Hiroshige]ロンドン刊。99図版挿入

人 事	日本及び国外の日本	世 界	年代
*エチオピア帝国初の特使として、ヘルイ (Herui, Blatien Gueta) 来日	*アメリカ映画「モロコ」封切り (2月) *満州事変始まる (9月) *ベルリンで日本画展覧会開催、当時の日本画の粋を集めた		1931 昭和6
*俳優チャプリン来日 *グルー (Grew, Joseph Clark 1880~1965) 駐日大使として来日。在任中、満州事変、五・一五事件、二・二六事件などの出来事を体験、困難な日米関係の調整に努めた	*上海事変起こる (1月) *満州国建国 (3月) *五・一五事件起こる (5月) *第10回オリンピックがロサンゼルスで行われ、三段跳び、男子水泳、馬術で7個の金メダル (7月)		1932 昭和7
*新渡戸稲造没 *タウト (Taut, Bruno 1880~1938) ドイツの建築家、ナチス政権を逃れて日本へ亡命。桂離宮をはじめとする日本建築の再評価、日本文化の研究に従事した	*三陸地方地震・大津波 (3月) *国際連盟脱退 (3月)	*ヒトラー、ドイツ首相に就任 *フランクリン・ルーズヴェルト、第32代大統領に就任 *アメリカ、ニュー・ディール諸法・テネシー溪谷開発公社法など成立 *パリで第一回宝くじ発売	1933 昭和8
*エリセーエフ、ハーバード大学教授となる *コンラッド、ソヴィエト人で初めて日本学の文学博士号を授与される *ベーブ・ルースほかアメリカ大リーグ選抜野球チーム来日 *李御寧、生まれる。韓国の評論家、大学教授	*室戸台風 (9月) *日本民族学会設立 (10月) *文部省に国語審議会設置 (12月) *ワシントン海軍軍縮条約放棄を米国に通告 (12月)	*キュリー夫妻、人工放射能を発見 *トインビー「歴史の研究」刊 (~1961)	1934 昭和9

年代	日本研究の歩み	文献年表
		<ul style="list-style-type: none"> * 廖森揚『近代日本教育史』民智書局 * タウト『ニッポン Nippon, mit europäischen Augen gesehen』刊。桂離宮を一躍有名にした書 * ジューコフ (Zhukov, Evgenii Mikhailovich 1907~) 『日本』モスクワ刊
1935 昭和10	<ul style="list-style-type: none"> * 日本・オーストリア協会設立 * 高木八束によって、『アメリカにおける日本研究』調査が行われる * 国際学友会創立(東南アジア留学生受け入れのための外務省の事業) 	<ul style="list-style-type: none"> * 繆鳳林『日本史鳥瞰』鐘山書局 * フェリドマン露訳『奥の細道』モスクワ刊 * ギューリック“Toward understanding Japan”ニューヨーク刊 * 潘光旦『日本徳意志民族性之比較研究』新月書店 * ホロドヴィッチ (Kholodovich, A. A. 1906~) 露訳『竹取物語』モスクワ刊 * 謝六逸『日本文学史』北新書局 * タウト『日本の建築Grundlinien Japanischer Architektur』刊 * 鄭独歩『日本国民性之検討』正中書局
1936 昭和11	<ul style="list-style-type: none"> * ミシガン大学、日本語授業開始 * ソ連科学アカデミー付属経済研究所、歴史学研究所を新設 	<ul style="list-style-type: none"> * フェリドマン露訳、芥川竜之介『羅生門』刊 * ボクサー“Jan Compagnie in Japan, 1600-1817”ハーグ刊。オランダ東印度会社と日本との関係史。4 彩色挿絵、13モノクロ挿絵挿入 * ハーベン (Harben, Henry Devenish) “Japan and back” Welwyn Garden City (私家版)。イギリス人による旅行記 * 『ハーバード大学燕京研究所紀要 Harvard Journal of Asiatic Studies』創刊 * ハンター (Hunter, Dard) “A papermaking pilgrimage to Japan, Korea and China” ニューヨーク刊。34図版、49サンプル紙挿入 * スチムソン (Stimson, Henry Lewis) 『極東の危機 The Far Eastern crisis』ニューヨーク他刊 * サンソム夫人『東京暮らし Living in Tokyou』ロンドン刊 * ポポフ, K. M. 『日本経済』刊 * タウト『日本文化私観 Japans Kunst』刊。絵画、彫刻、建築、音楽、映画さらに都市計画まで論じる * 鄭学稼『日本財閥史論』生活書店 * ティルトマン (Tiltman, Hugh Hessel 1897~1976) 『日本報道三十年 The Far East comes nearer』刊。イギリス人ジャーナリストの見た日本現代史
1937 昭和12	<ul style="list-style-type: none"> * シカゴ大学に東洋言語及び文学部設立 * レニングラード大学文献学部東洋学科の再建 	<ul style="list-style-type: none"> * モンタンドン (Montandon, George) “La civilisation aïnou et les cultures arctiques” パリ刊。48図版挿入、10 地図挿入 * 王紀元『日本政治研究』生活書店 * 王輯五『中国日本交通史』商務印書館 * 李凡夫『中国与日本』上海引撃出版社 * 李建芳『日本明治維新運動』黎明書局 * 思慕『日本財閥・軍部和政党』黑白叢書

人 事	日本及び国外の日本	世 界	年代
<p>*チェンバレン、スイスで没 *マライーニ(Maraini, Fosco 1912~)イタリア人 初来日、以降たびたび来日。日本語、日本文学。 *ペリオ(Pelliot, Paul 1878~1945)フランスのシ ナ学者、探検家来日</p>	<p>*菊池寛、『文藝春秋』で芥川賞・直 木賞の創設を発表(1月) *湯川秀樹、中間子理論を発表(2 月) *日本ペンクラブ結成(初代会 長・島崎藤村)(11月)</p>	<p>*モスクワで第7回コミンテル大 会開催 *イタリア、エチオピア侵略開始 *イギリスで『ペンギン・ブッ クス』創刊</p>	<p>1935 昭和10</p>
<p>*ウォーナー、ハーヴァード大学三百年祭記念日本 美術展覧会開催に尽力</p>	<p>*二・二六事件(2月) *中野正剛ら東方会結成(5月) *日・独防共協定調印(11月)</p>	<p>*スペイン内乱始まる。フランコ 將軍、ファシスト反乱派の政府首 席・最高司令官となる *イギリスのBBC放送開始</p>	<p>1936 昭和11</p>
<p>*ハミツチュ(Hammitzsch, Horst 1909~)ライ プチヒ大で神道研究により博士号取得 *ヘレン・ケラー女史、来日 *ネフスキー、粛清される(45歳)</p>	<p>*文化勳章制定(2月) *日中戦争始まる(7月) *パリ万国博覧会で坂倉準三設計 の日本館が設計賞受賞(10月) *日独伊三国防共協定成立(11月)</p>	<p>*ピカソの『ゲルニカ』、パリ万国 博覧会スペイン館で展示 *イギリスで『ペリカン・ブッ クス』創刊 *E. スノー『中国の赤い星』刊</p>	<p>1937 昭和12</p>

年代	日本研究の歩み	文献年表
		<p>*ソヴェート研究会編『ソ連の日本研究』高山書院。ソ連で新聞等に掲載された日本研究の論文の翻訳</p> <p>*タウト『日本の家屋と生活 Houses and people of Japan』ロンドン刊。553挿絵挿入</p>
1938 昭和13	<p>*日本・ハンガリー文化協定調印</p> <p>*ウィーン大学日本研究所設立</p> <p>*ソ連科学アカデミー国際経済研究所を新設</p>	<p>*デュモリオン(Dumoulin, Heinrich 1905-)『吉田松陰 Yoshida Shoin』を“Monumenta Nipponica, vol.1”に発表。著者はドイツのイエズス会宣教師</p> <p>*ロンドン王室国際問題研究所『英国の親た日支関係 China and Japan; information department paper』刊</p> <p>*李季『二千年中日関係発展史』(全3巻 ~1840)</p> <p>*鈴木大拙『禅と日本文化 Zen Buddhism and its influence on Japanese culture』京都刊</p> <p>*鄭学稼『中国与日本』重慶文苑社</p> <p>*ティンパーリー(Timperley, H. J.)『外国人の見た日本軍の暴行：実録・南京大虐殺 What war means the Japanese astro-cities in China』刊。イギリス人ジャーナリストの見た南京大虐殺の報告</p> <p>*日本文化の英文学術雑誌“Monumenta Nipponica”創刊</p> <p>*パーカー(Parker, Peter 1804~1888)“Journal of an expedition from Singapore to Japan”ロンドン刊</p>
1939 昭和14	<p>*京都大学・人文科学研究所(旧)設立</p>	<p>*チェンバレン『日本事物誌 Things Japanese』最終版の第6版刊行</p> <p>*クロウ(Crow, Herbert Carl 1883~1945)『ハリス伝 He opened the door of Japan; Townsend Harris and the story of his amazing...』ロンドン刊</p> <p>*グリスウォルド(Griswold, A. Whitney)『米国極東政策史 The Far Eastern policy of the United States』イエール大学出版局</p> <p>*フーベル(Huber, Gerhard 1896~)『蝦夷切支丹史』札幌刊。ドイツの宣教師による古典的研究書</p> <p>*思慕『戦争途中の日本』生活書店</p> <p>*蔣百里『日本人：一個外国人的研究』大公報</p>
1940 昭和15		<p>*リフ(Lif, Sh. B.)『戦争と日本経済』刊</p> <p>*野口米次郎『春信 Harunobu』ロンドン刊。82図版挿入</p> <p>*ノーマン『日本における近代国家の成立 Japan's emergence as a modern state』ニューヨーク刊</p> <p>*リーチ『陶工の本 A potter's book』刊</p> <p>*信濃愛人訳編『支那人の見た日本人』青年書房</p>

人 事	日本及び国外の日本	世 界	年代
	 <p>タウト「日本の家屋と生活」</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> * 国家総動員法公布(4月) * 日ソ停戦協定成立(8月) * 日独文化協定成立調印(11月) * 「岩波新書」刊行開始 	<ul style="list-style-type: none"> * ドイツ、オーストリア併合 	1938 昭和13
<ul style="list-style-type: none"> * ノーマン、ハーバード大学「日本における近代国家の成立」により博士号取得 * ライシャワー、ハーバード大学「入唐求法巡礼行記」により博士号取得 	<ul style="list-style-type: none"> * ノモンハン事件(5月) * 国民徴用令公布(7月) * 米、日米通商航海条約破棄を通告 	<ul style="list-style-type: none"> * ドイツ・ソ連不可侵条約締結 * 第2次世界大戦始まる * 初代大統領ワシントン就任150年を記念して、ニューヨークで万国博覧会開催(~40) 	1939 昭和14
	<ul style="list-style-type: none"> * 日本・タイ和親条約調印(6月) * 日独伊三国同盟条約調印(9月) * 大政翼賛会発会式(10月) 		1940 昭和15

年代	日本研究の歩み	文献年表
		*鄭学稼『日本明治維新新史綱』新中国文化出版社
1941 昭和16	*アメリカにおいて語学要員養成のため、海軍、陸軍内に日本語の集中計画始まる *「アジア学会 Association for Asian Studies」創立。学術雑誌「アジア学会誌 Journal of Asian Studies」発行	*コンラッド『日本語措辞論入門』刊 *野口米次郎『聖武天皇と正倉院 Emperor Shomu and the Shosoin』(全2巻)東京刊。86図版挿入 *周作人『日本文化再認識』国際文化振興会 *『極東学研究雑誌 Far Eastern Quarterly』創刊→「アジア研究雑誌 Journal of Asian Studies」へと続く
1942 昭和17	*ロンドン大学東洋学部で軍人のための日本語特訓コース始まる *ソ連科学アカデミー太平洋研究所設置	*ブライス(Blyth, Reginald Horace)“English literature and Oriental classics”刊 *グラフ(Graf, Ola)『貝原益軒 Kaibara Ekiken』ライデン刊 *グルー“Reports from Tokyo”刊 *モラエス“Fernão Mendes Pinto no Japão”(Facsimile do manuscript original), リスボン刊 *Wayman, Dorothy G. 『エドワード・シルベスター・モース Edward Sylvester Morse; a biography』Harvard Univ. Press
1943 昭和18	*カナダ陸軍、バンクーバーにおいて日本語訓練学校設立 *マーブルク大学、非ヨーロッパ言語・文化学専門領域に日本学部門設立 *オタワのカールトン・カレッジ(後のカールトン大学)にて宣教師 E・ボットが日本語を教える *国際学友会による南方特別留学生受け入れ開始	*ノーマン『日本の兵士と農民 Soldier and peasant in Japan; the origin of conscription』刊 *ボンソンビ・フェーン“Studies in Shinto and Shrines”京都刊
1944 昭和19		*ベネディクト(Benedict, Ruth)『菊と刀 The chrysanthemum and the sword』ニューヨーク刊。著者は来日経験のないアメリカの女性社会人類学者。「菊と刀」をもって日本人の性格の矛盾した面を論じた *デアシス(De Asis, Leocadio)『南方特別留学生トウキョウ日記 From Bataan to Tokyo』稿成(発行は1979年) *グルー『滞日十年 Ten years in Japan』ニューヨーク刊 *洪啓翔『古代中日関係之研究』重慶商務印書館 *ベリ『能 Le Nô』日仏会館 *謝南光『日本主義的没落』国民図書出版社 *姚宝猷『日本帝国主義的的特性』商務印書館
1945 昭和20	*トロント大学東アジア研究学科設立 *チェコスロヴァキア・カレル大学日本語学科開設	*ブロック(Block, B.)、ジョーダン(Jorden, H.)“Spoken Japanese, basic course”刊 *ラウレス『高山右近の生涯 Takayama Ukon und die Anfänge der Kirche in Japan』刊

人 事	日本及び国外の日本	世 界	年代
	<ul style="list-style-type: none"> *日ソ中立条約調印(4月) *東条英機内閣成立(10月) *ゾルゲ事件(10月) *太平洋戦争始まる(12月) *日本・タイ同盟条約調印(12月) *日独伊軍事協定調印(1月) 	*フランスで「ク・セ・ジュ双書」 創刊	1941 昭和16
	*ミッドウェー海戦(6月)		1942 昭和17
	<ul style="list-style-type: none"> *ガダルカナル島から撤退開始(2月) *フィリピン共和国独立宣言。日比同盟条約調印(10月) *日華同盟条約調印(10月) 	*チャンドラ・ボース、自由インド仮政府樹立 *イタリア降伏	1943 昭和18
*インドネシアの日本研究者ベイ(Bey, Arfin 1925-)南方留学生として日本留学	<ul style="list-style-type: none"> *新聞夕刊廃止(3月) *東条内閣総辞職(7月) *レイテ沖海戦(10月) 	*連合軍、ノルマンジー上陸	1944 昭和19
<ul style="list-style-type: none"> *キーン(Keene, Donald)アメリカの日本文学研究者初来日 *マッカーサー(MacArthur, Douglas 1880~1964)連合軍最高指揮官として厚木飛行場に到着 *サイデNSTテッカー(Seidensticker, Edward 1921-)アメリカの日本文学研究者初来日 	<ul style="list-style-type: none"> *B29、東京を大空襲(3月) *ソ連、対日宣戦布告(8月) *広島・長崎に原子爆弾投下(8月) *ポツダム宣言を受諾。日本、無条件降伏(8月) *天皇、「終戦」詔勅放送(8月) 	<ul style="list-style-type: none"> *ヤルタ会談 *ドイツ軍、無条件降伏 *国際連合成立。日本は1956年に加盟 *ユネスコ成立。日本は1951年に加盟 *インドネシア共和国独立宣言 	1945 昭和20

年代	日本研究の歩み	文献年表

人 事	日本及び国外の日本	世 界	年代
	*降伏文書調印(9月) *財閥解体(11月) *農地改革(12月) *婦人参政権(12月) *労働組合法公布(12月) (この年) *アメリカの公的文化機関CIE 図書館(のちのアメリカンセンタ ー)、東京に開館	*アラブ連盟結成	

〈参考文献〉(発行年代順)

*①であげた文献は省いた

◎以下の3点の参考図書には特にお世話になった。記して謝意を表したい。

- * 岩波書店編集部編 岩波西洋人名辞典 増補版 岩波書店 1981
 - * 武内博編 来日西洋人名事典 日外アソシエーツ 1983
 - * 岩波書店編集部編 近代日本総年表 第3版 岩波書店 1991
-
- * 小島六郎 日本登山年表 (川崎隆章編『山岳事典』山と溪谷社 1960)
 - * 黄遵憲著 実藤恵秀・豊田稷訳 日本雑事詩 平凡社 1968 (東洋文庫:111)
 - * 唐木順三編 明治文学全集 49 筑摩書房 1968
内容:ベルツ モース モラエス ケーベル ウォッシュバン集
 - * チェンバレン著 高梨健吉訳 日本事物誌(全2巻) 平凡社 1969 (東洋文庫:131,147)
 - * レルヒ,テオドール・フォン著 明治日本の思い出—日本のスキーの父の手記 中外書房 1970
 - * モース, E. S.著 石川欣一訳 日本その日その日(全3巻) 平凡社 1970~71 (東洋文庫:171,172,179)
 - * ネフスキー, N.著 岡正雄編 月と不死 平凡社 1971 (東洋文庫:185)
 - * 山崎安治編 日本登山史年表 (『世界山岳百科事典』山と溪谷社 1971)
 - * バード, イサベラ著 高梨健吉訳 日本奥地紀行 平凡社 1973 (東洋文庫:240)
 - * ハーン, ラフカディオ著 柏倉俊三訳注 神国日本—解明への一試論 平凡社 1976 (東洋文庫:292)
 - * ハワード, E.著 島木久大訳 薩摩国見聞記—英国婦人の見た明治の日本 新人物往来社 1978
 - * ブラキストン, T. W.著 近藤唯一訳 蝦夷地の中の日本 八木書店 1979
 - * ローエル, パーシヴァル著 宮崎正明訳 能登一人に知られぬ日本の秘境 パブリケーション四季 1979
 - * 談叢近代日本関係洋書(1)~(6)『人文学報』(京都大学)48号(1980.3)~57号(1984.3)
 - * 戴季陶著 市川宏訳 竹内好解説 日本論 社会思想社 1983 (現代教養文庫:1076)
 - * 山崎安治 日本登山史年表抄 (岳人編集部編『岳人事典』東京新聞出版局 1983)
 - * 真鍋一史編 世界における日本研究—国際交流と国際比較の視点から 関西学院大学 1984
 - * シュワルツ, H. B.著 島津久大・長岡祥三訳 薩摩国滞在記—宣教師の見た明治の日本 新人物往来社 1984
 - * 新堀通也監修 知日家人名辞典 有信堂 1984
 - * 西野順治郎著 日・タイ四百年史 新版増補 時事通信社 1984 (1978年初版)
 - * コジェンスキー, ヨセフ著 鈴木文彦訳 明治のジャポンスコーポヘミア教育総監の日本観察記 サイマル出版会 1985
 - * 吉田光邦編 図説万国博覧会史 1851~1942 思文閣 1985
 - * 国立民族博物館編 諸外国における日本文化研究の現状 国立民族博物館 1986
 - * 新堀通也編著 知日家の誕生 東信堂 1986
 - * 石井米雄・吉川利治 日・タイ交流600年史 講談社 1987 \$日タイ交流史年表あり
 - * ムンチンガー, C.著 生熊文訳 ドイツ宣教師の見た明治社会 新人物往来社 1987
 - * 20世紀全記録 Chronik 1900~1986 講談社 1987
 - * ザ・ヤトイーお雇い外国人の総合的研究 思文閣出版 1987
 - * ウェストン, W.著 長岡祥三訳 ウェストンの明治見聞記—知られざる日本を旅して 新人物往来社 1987
 - * チェンバレン, B. H. メーソン, W. B. 著 楠家重敏訳 チェンバレンの明治旅行案内 横浜・東京編 新人物往来社 1988
 - * ヒューブナー著 市川慎一・松本雅弘訳 オーストリア外交官の明治維新 世界周遊記〈日本篇〉 新人物往来社 1988
 - * 楠家重敏 日本アジア協会の研究 1~4 『武蔵野女子大学紀要』22号(1988)~25号(1991)
 - * モール, O. v.著 金森誠也訳 ドイツ貴族の明治宮廷記 新人物往来社 1988
 - * 大庭定男著 戦中ロンドン日本語学校 中央公論社 1988 (中公新書:868)
 - * ポンティング, H. G.著 長岡祥三訳 英国特派員の明治紀行 新人物往来社 1988
 - * リース, L. 著 原潔・永岡敦訳 ドイツ歴史学者の天皇国家観 新人物往来社 1988

- * シュネー, H. 著 金森誠也訳 「満州国」見聞記ーリットン調査団同行記 新人物往来社 1988
- * クローデル, P. 著 樋口裕一訳 天竺国見聞記 新人物往来社 1989
- * 磯見辰典・黒沢文貴・櫻井良樹著 日本・ベルギー関係史 白水社 1989
- * 楠家重敏 日本アジア協会関係年譜 (1874~1875)~【武蔵野英米文学】22号~
- * 昭和史全記録 Chronicle 1926~1989 毎日新聞社 1989
- * 日墨協会・日墨交流史編集委員会編 日墨交流史 PMC 出版 1990
- * 荒俣宏 開化異国助っ人奮戦記 小学館 1991
- * 藤井哲博著 長崎海軍伝習所 中央公論社 1991 (中公新書:1024) §「長崎海軍伝習所年表」あり
- * 矢野暢編 東南アジアと日本 弘文堂 1991 (講座東南アジア学:10) §小島勝作成の「近代日本の南方関与略年表 (1868~1945)あり
- * アルヴァレス, マヌエラ アルヴァレス, ジョゼ著 金七紀男・岡村多希子・大野隆男訳 ポルトガル日本交流史 彩流社 1992.5
- * 中国東北地区中日関係史研究会編 鈴木静夫・高田祥平編訳 中国人の見た中国・日本関係史 東方出版 1992
- * 富田仁編 事典 外国人の見た日本 日外アソシエーツ 1992